



情報提供①

平成27年度特定健康診査実施結果 について

岩手県環境保健研究センター保健科学部 三浦 紀恵

〔対 象〕

東日本大震災津波被害のあった沿岸12市町村

気仙圏域・・・大船渡市、陸前高田市

釜石圏域・・・釜石市、大槌町

宮古圏域・・・宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村

久慈圏域・・・久慈市、普代村、野田村、洋野町

〔収集したデータ〕

- 平成20～27年度の8年間に、各市町村国民健康保険が実施した特定健診のデータ

- ・平成20～26年度 ⇒ いわて健康データウェアハウスのデータ
- ・平成27年度
⇒ 公益社団法人岩手県予防医学協会が実施したデータ

- 対象は、市町村国民健康保険加入者のうち、特定健診実施年度中に40～74歳となる者
- データは個人を識別不可能とし収集しているため、受診者の被災者、非被災者の区別はされていない。

〔集計項目〕

特定健診検査項目

- BMI
- HDLコレステロール
- γ -GT (γ -GTP)
- 血圧
- LDLコレステロール
- HbA1c

標準的な質問票項目

- 血圧を下げる薬の使用
- インスリン注射又は血糖を下げる薬の使用
- 脂質を下げる薬の使用
- 現在の喫煙習慣
- 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上の実施
- 日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上の実施
- 朝食を抜くことが週3回以上あるか
- お酒（清酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲む頻度
- 飲酒日の1日当たり3合以上飲酒の有無
- 睡眠で休養が十分とれているか

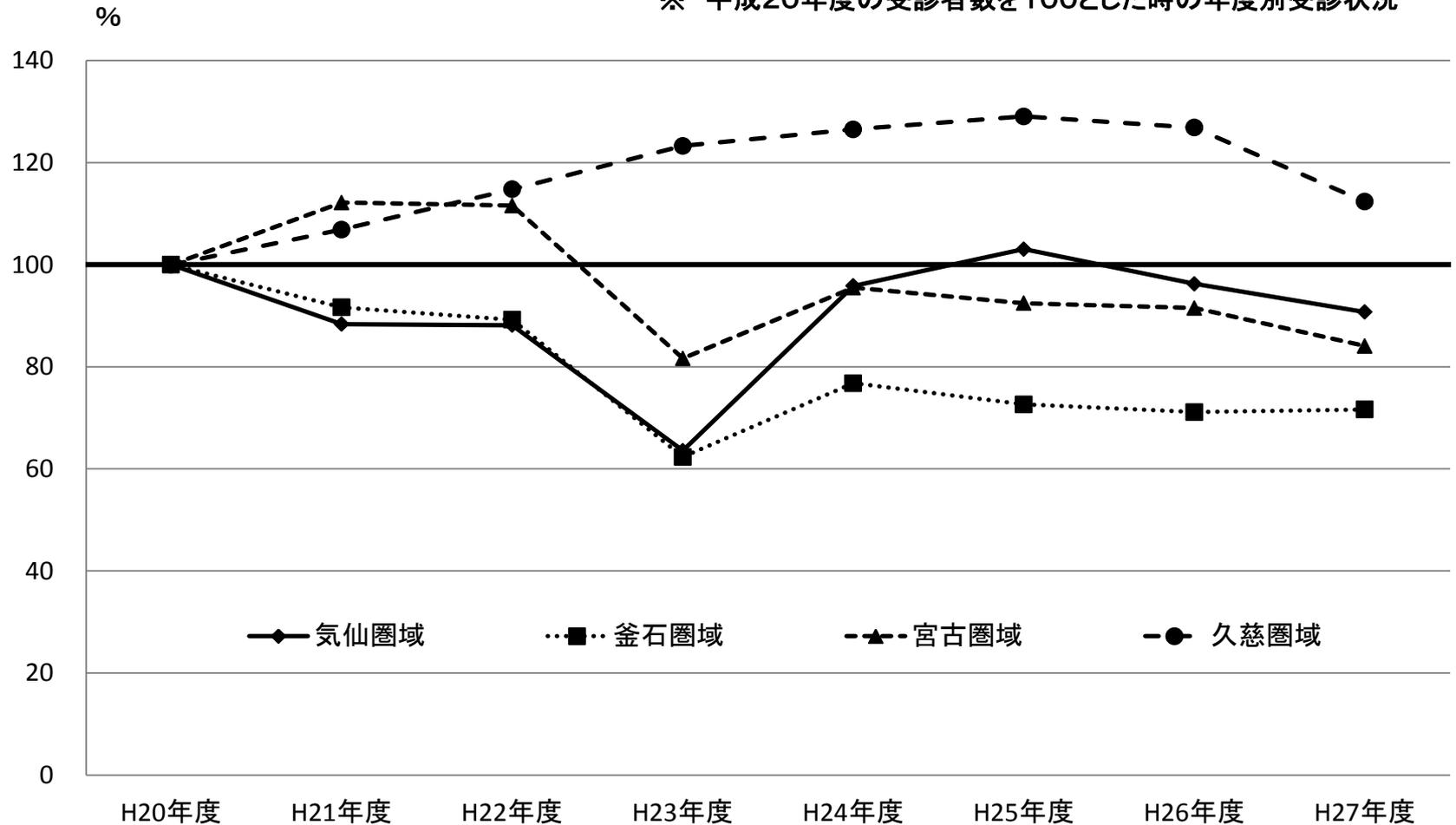
〔分析方法〕

『「全国健康保険協会特定健診・特定保健指導データ分析報告書（2011～2012年度）」との比較のための年齢調整平均/割合計算シート ver.1.0(2015.10.6)』^(注1)を用い、岩手県の平成20年10月1日推計人口を基準人口として、「検査項目別」に「年齢調整平均」と、「標準的な質問票の質問項目別」に「年齢調整割合」を、「沿岸12市町村全体」と「圏域別」に算出した。

(注1)平成26年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究(H25-循環器等(生習)・一般-014)(研究代表:横山徹爾)の一環

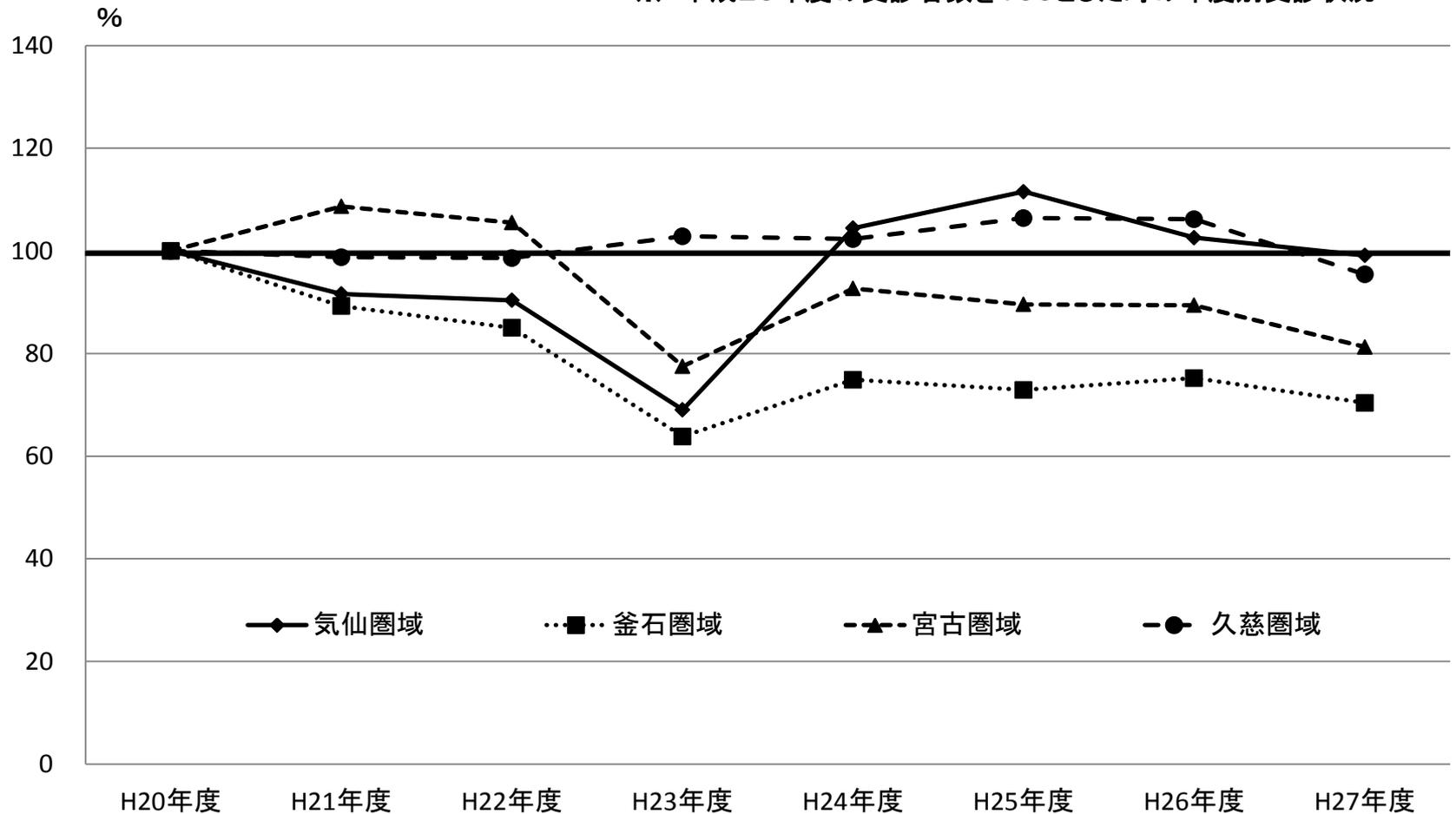
市町村国保別特定健康診査受診者の推移 男

※ 平成20年度の受診者数を100とした時の年度別受診状況

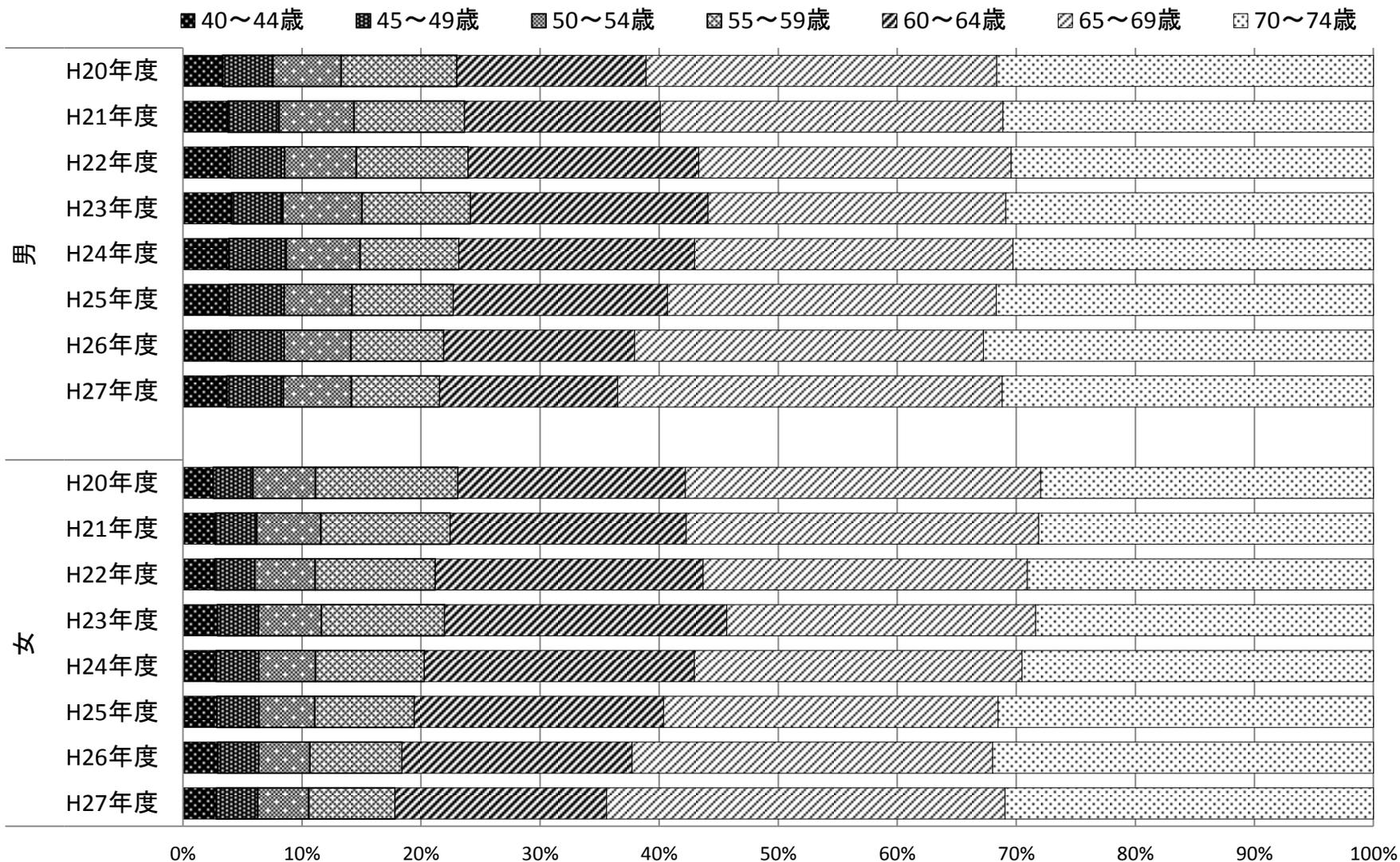


市町村国保別特定健康診査受診者の推移 女

※ 平成20年度の受診者数を100とした時の年度別受診状況

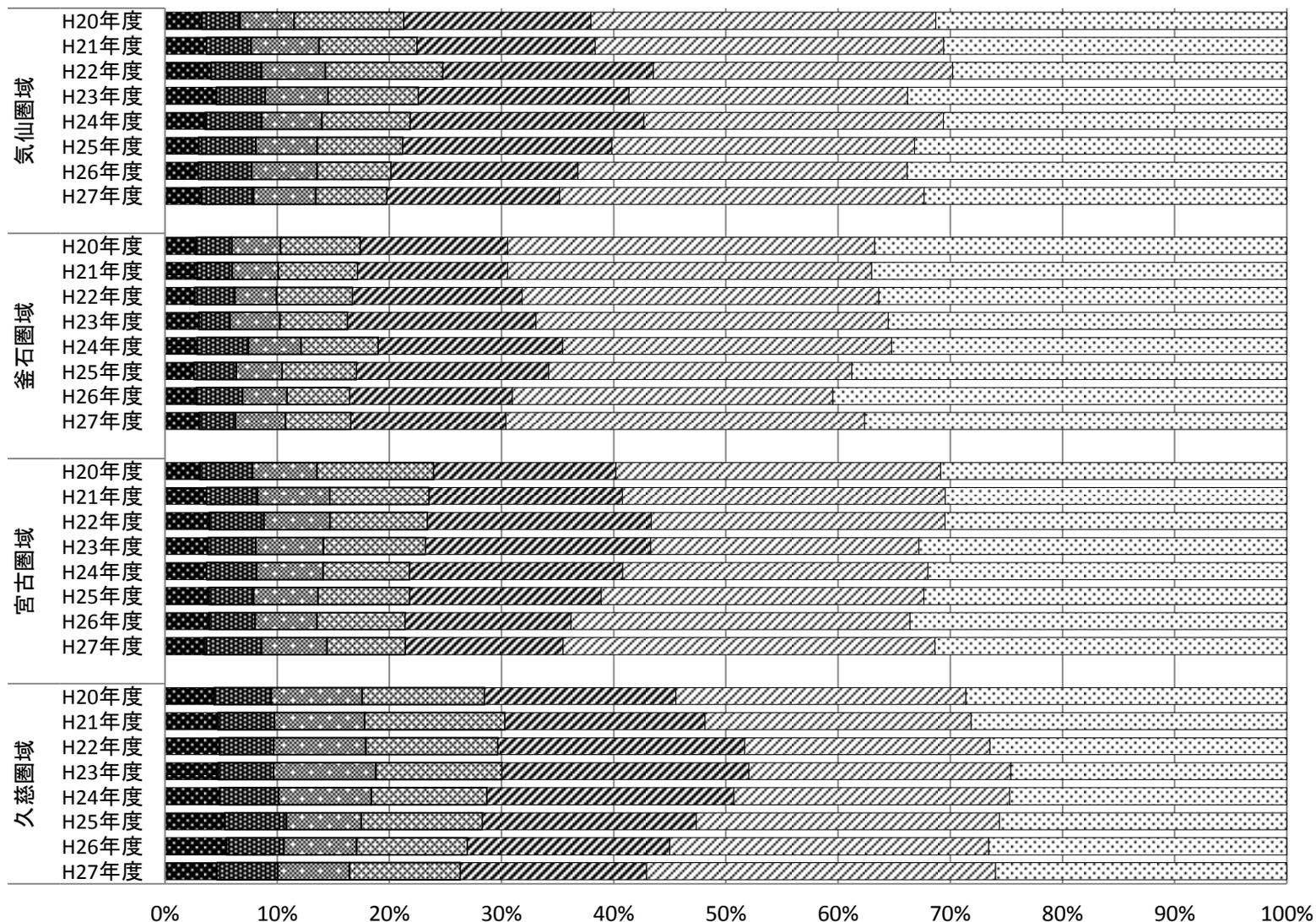


平成20～27年度 沿岸12市町村全体 年齢階級別受診割合の推移



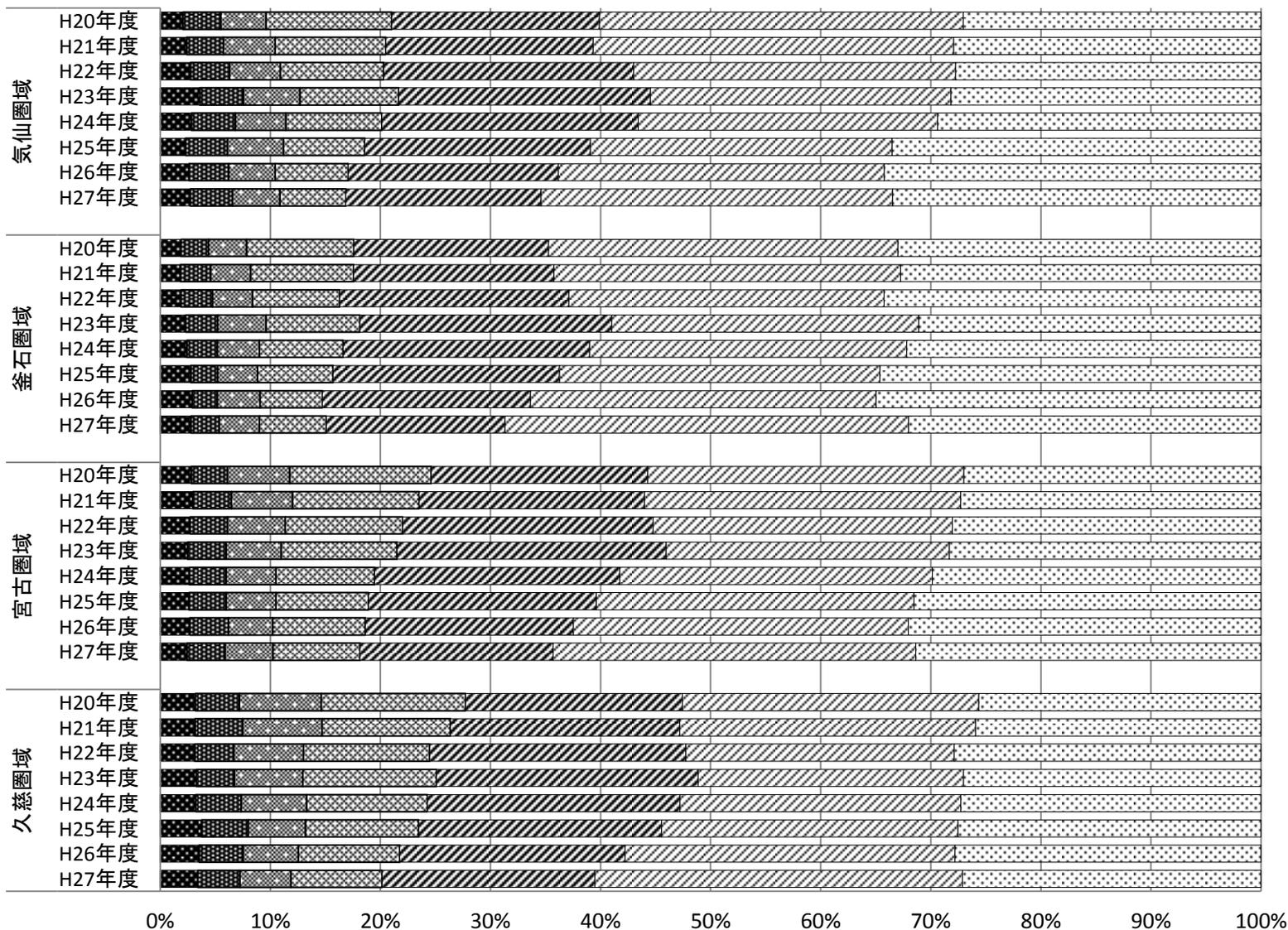
平成20～27年度 圏域別年齢階級別受診割合の推移 男

40～44歳
 45～49歳
 50～54歳
 55～59歳
 60～64歳
 65～69歳
 70～74歳



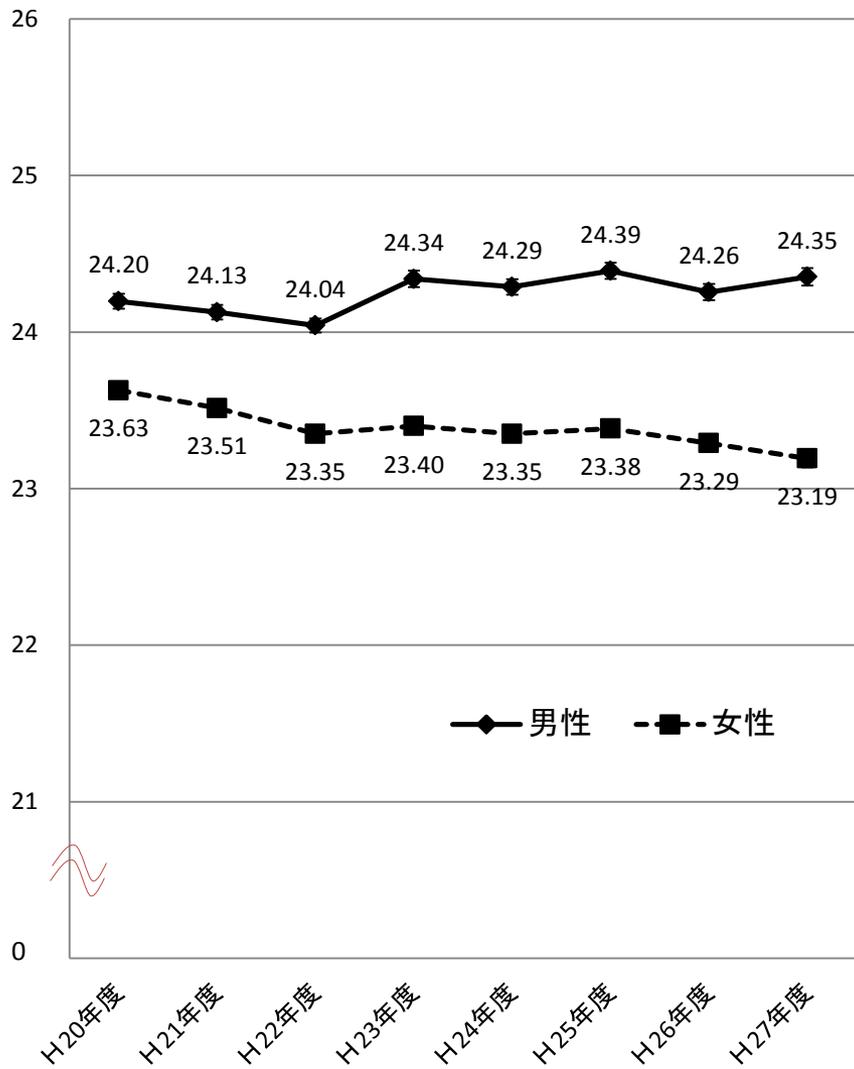
平成20～27年度 圏域別年齢階級別受診割合の推移 女

40～44歳
 45～49歳
 50～54歳
 55～59歳
 60～64歳
 65～69歳
 70～74歳



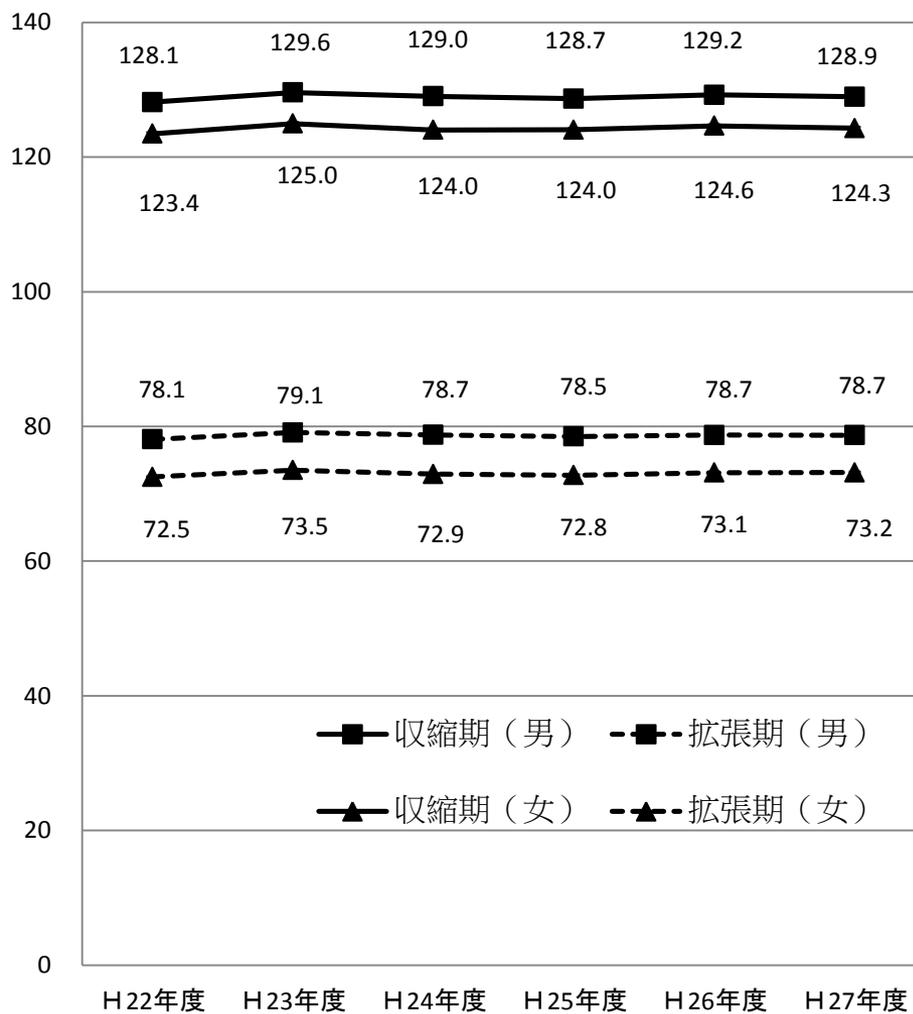
1-① 年齢調整平均 沿岸12市町村全体

【 BMI 】

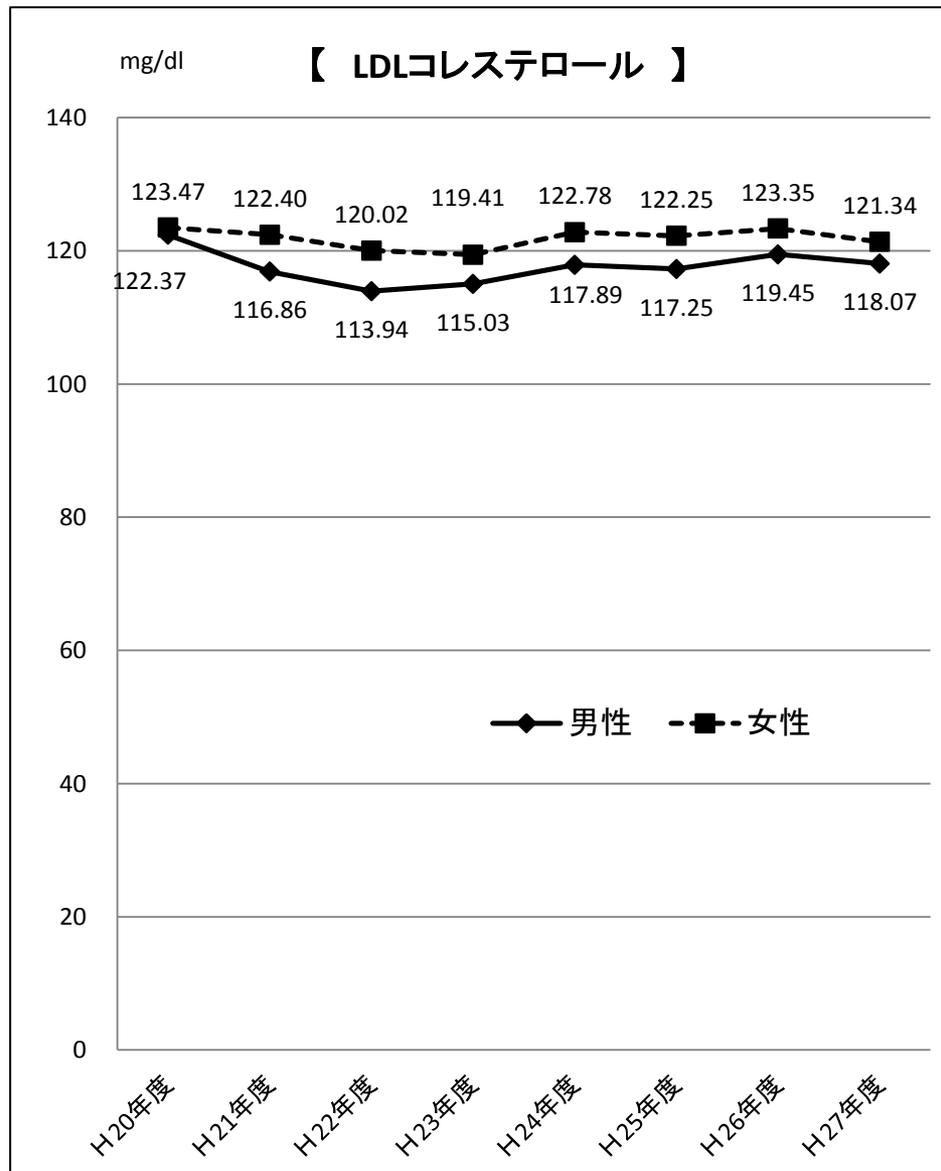
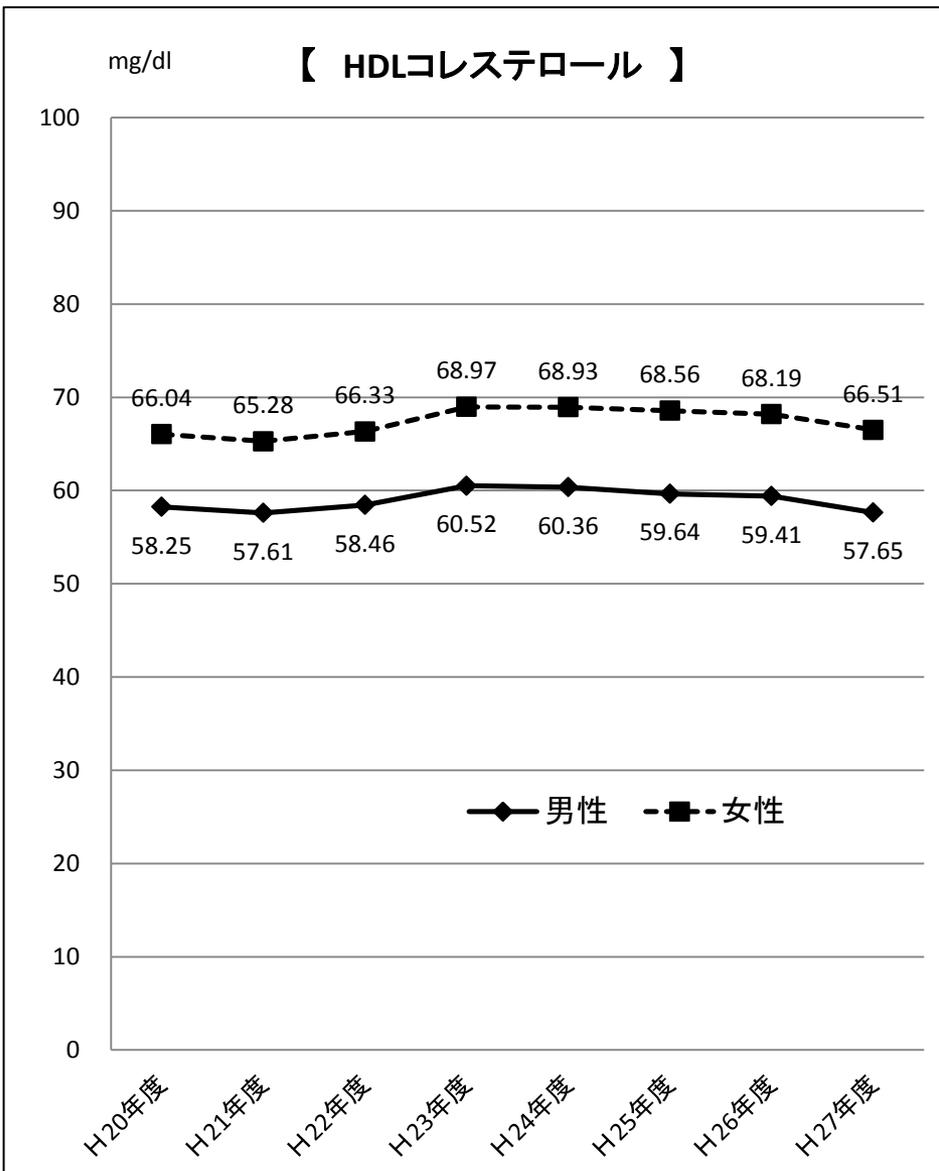


mmHg

【 血 圧 】

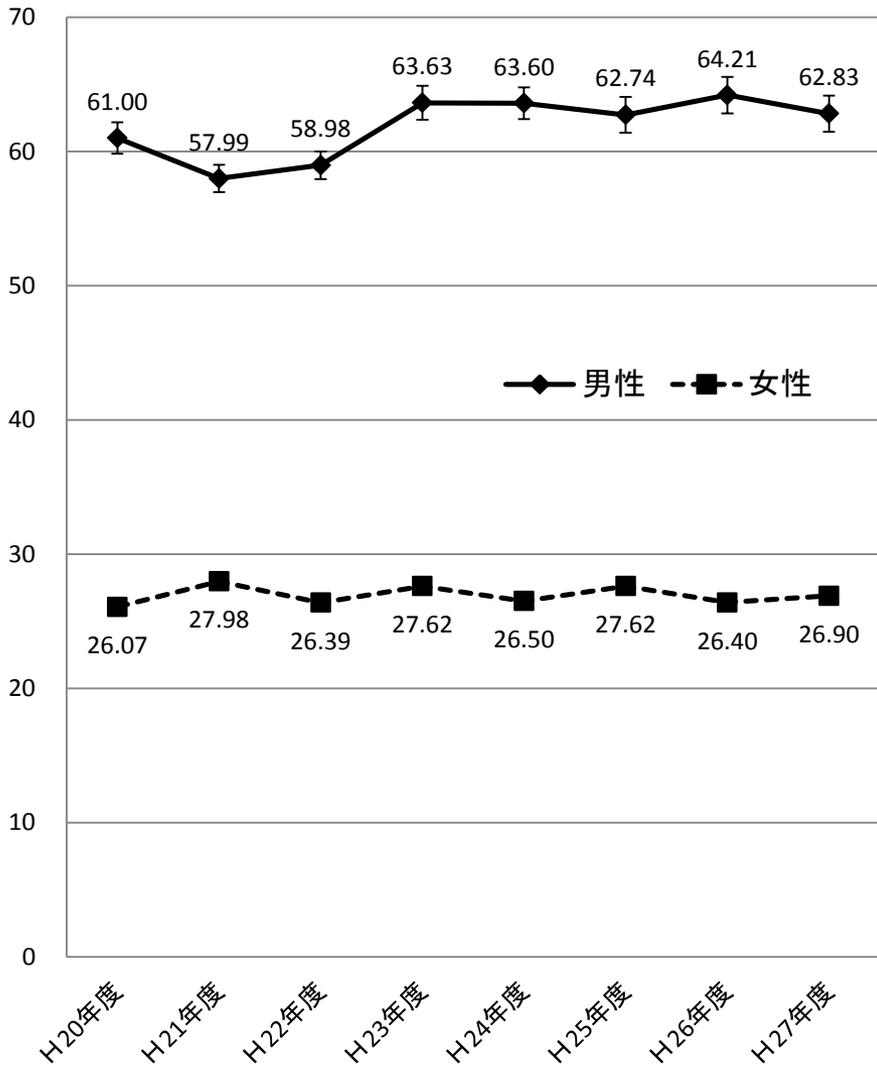


1-① 年齢調整平均 沿岸12市町村全体

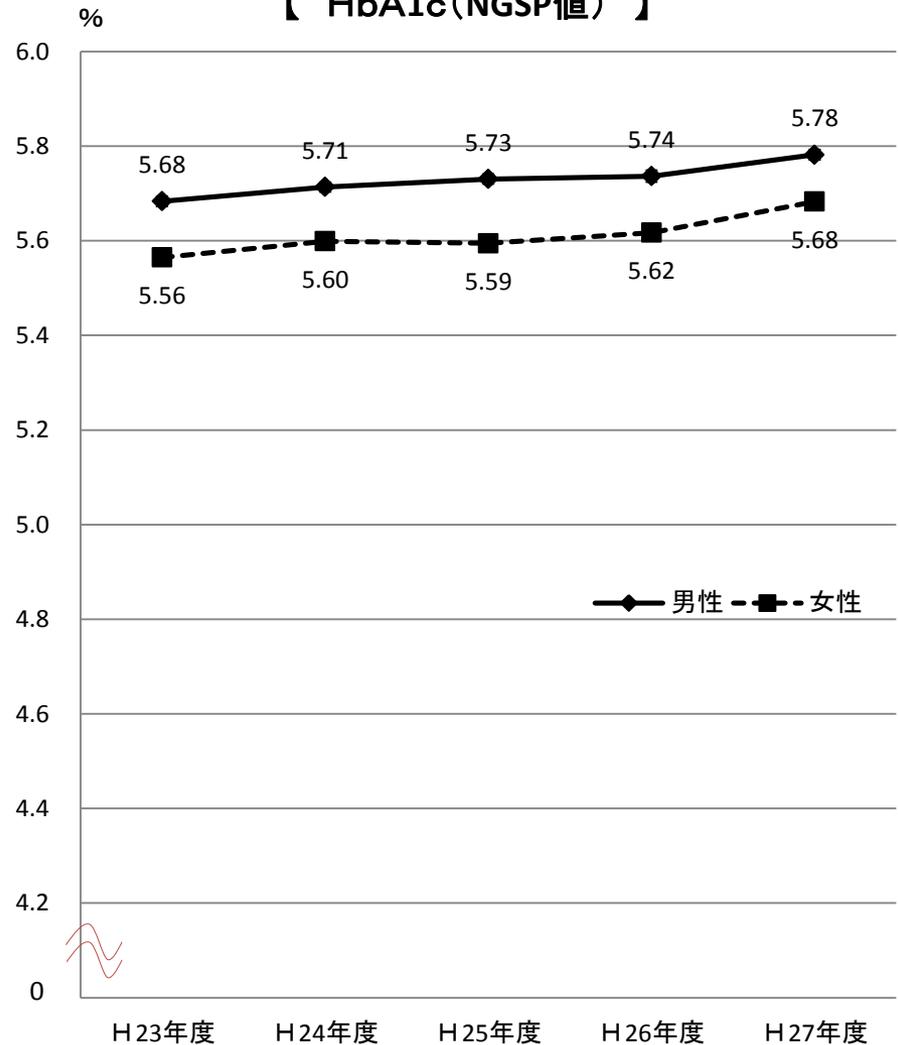


1-① 年齢調整平均 沿岸12市町村全体

U/l 【 γ -GT(γ -GTP) 】



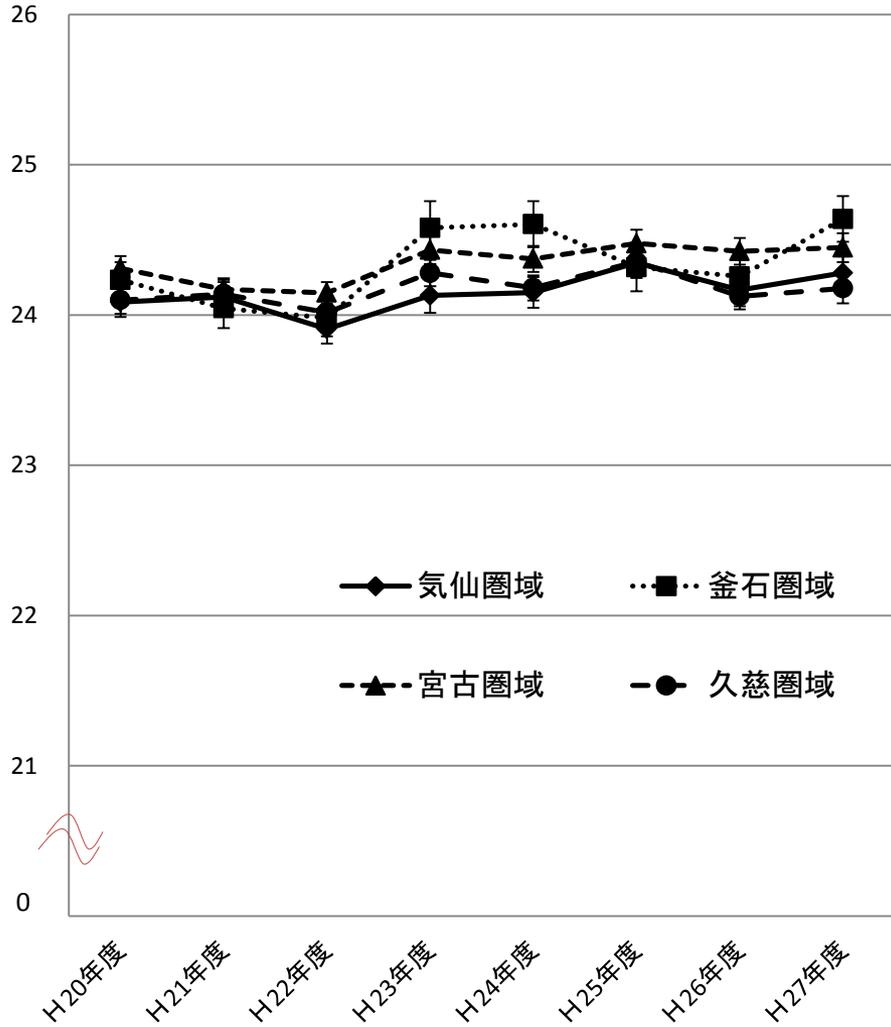
% 【 HbA1c(NGSP値) 】



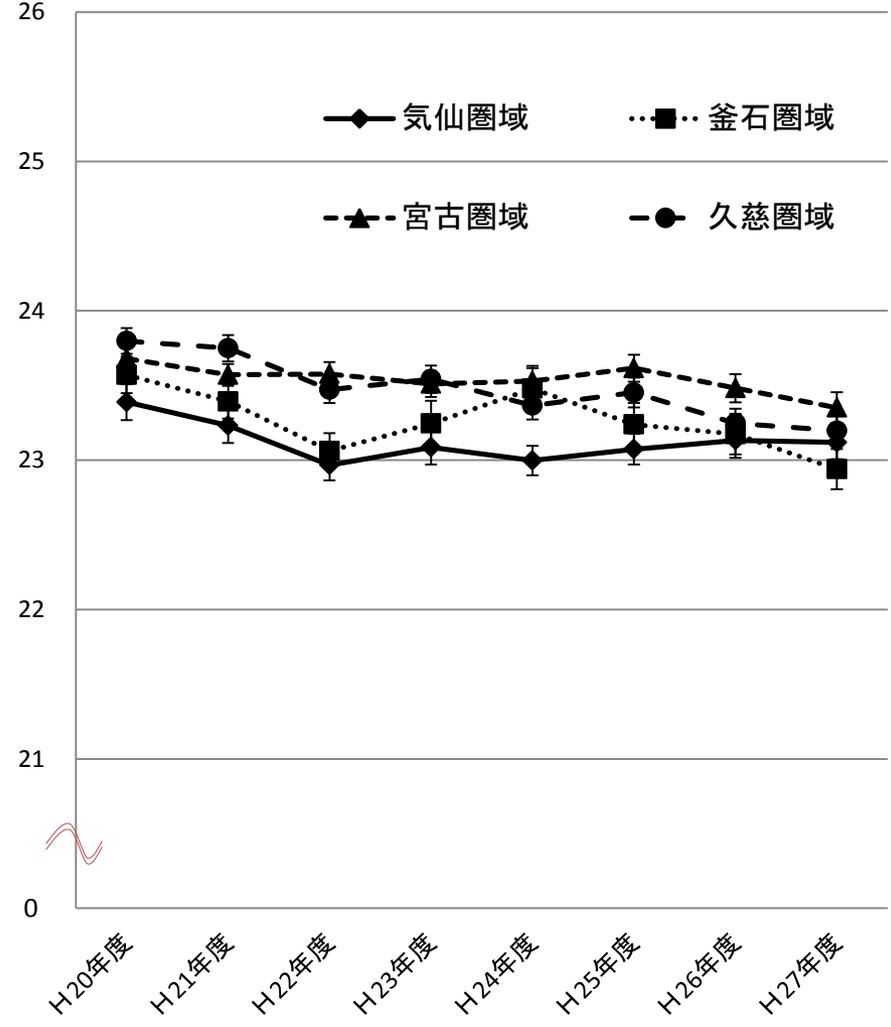
※H23年度、24年度はNGSP値に修正済

1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別「BMI」

【 男 】

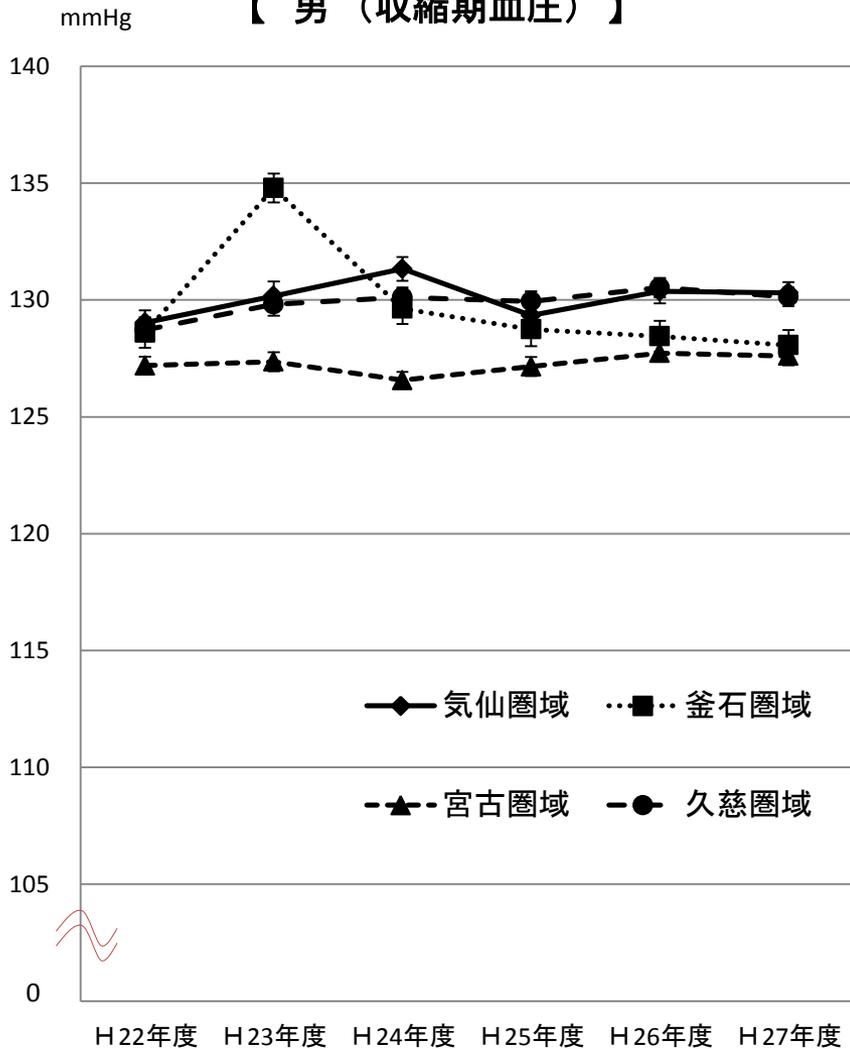


【 女 】

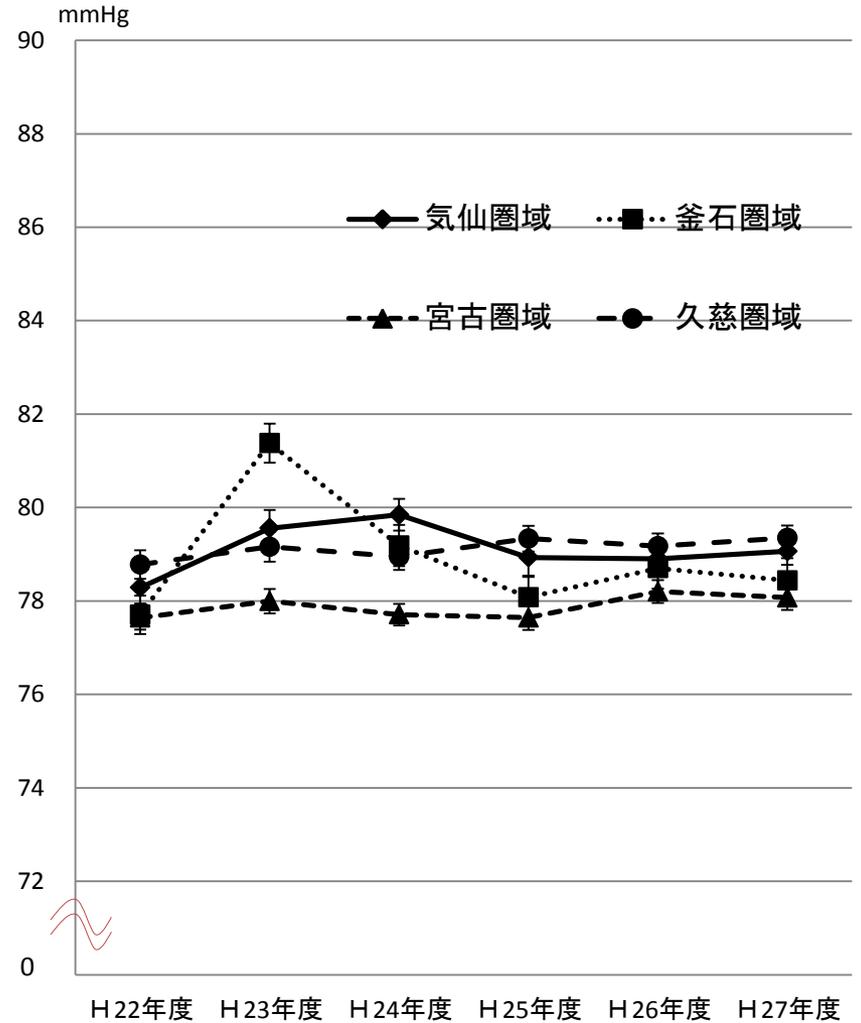


1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別 「血压」

【 男（収縮期血压） 】

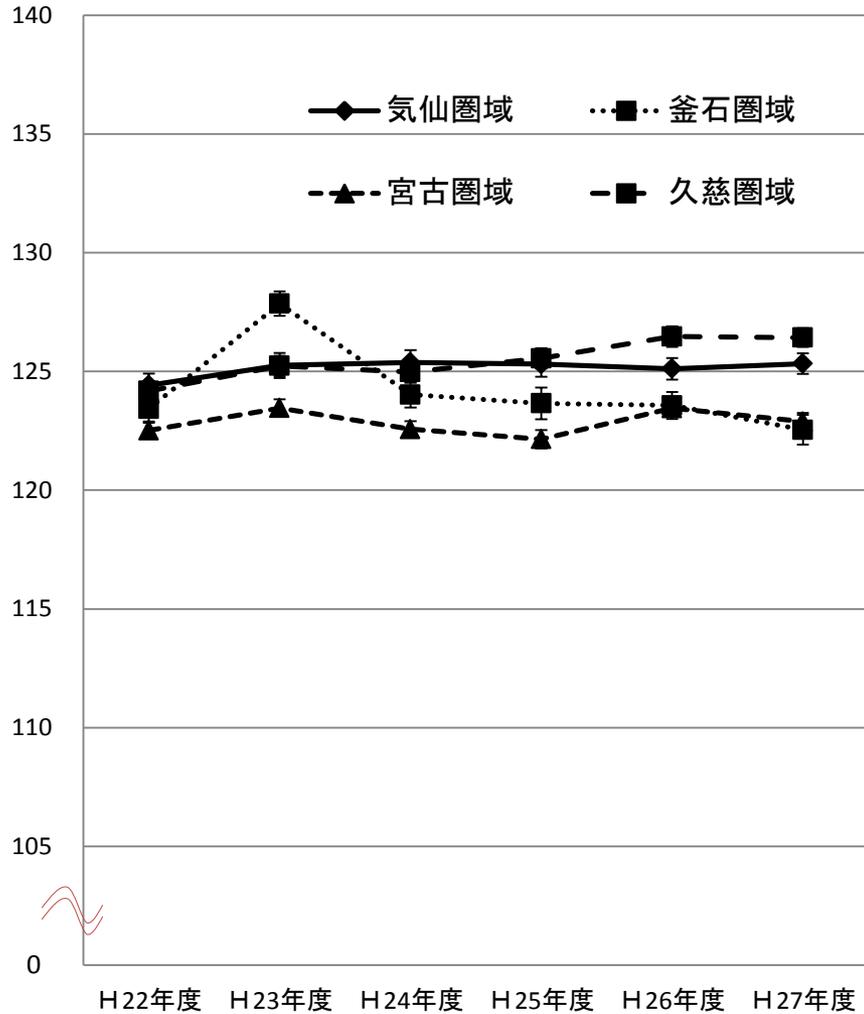


【 男（拡張期血压） 】

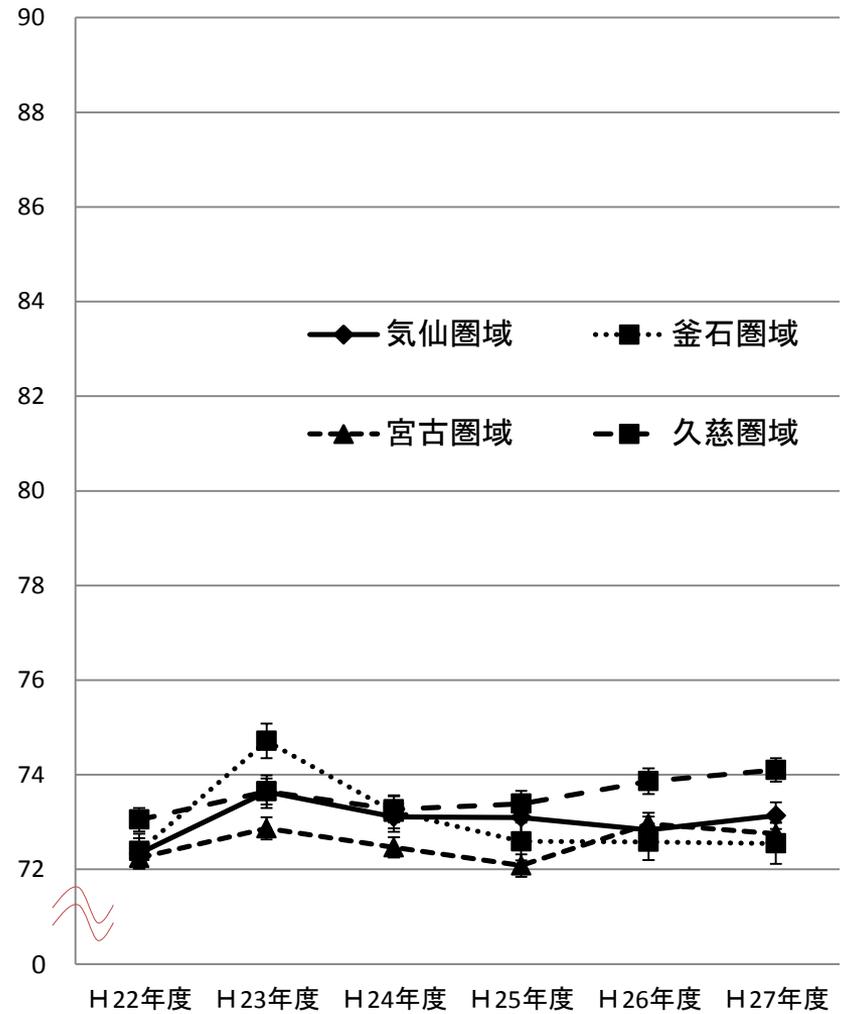


1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別「血压」

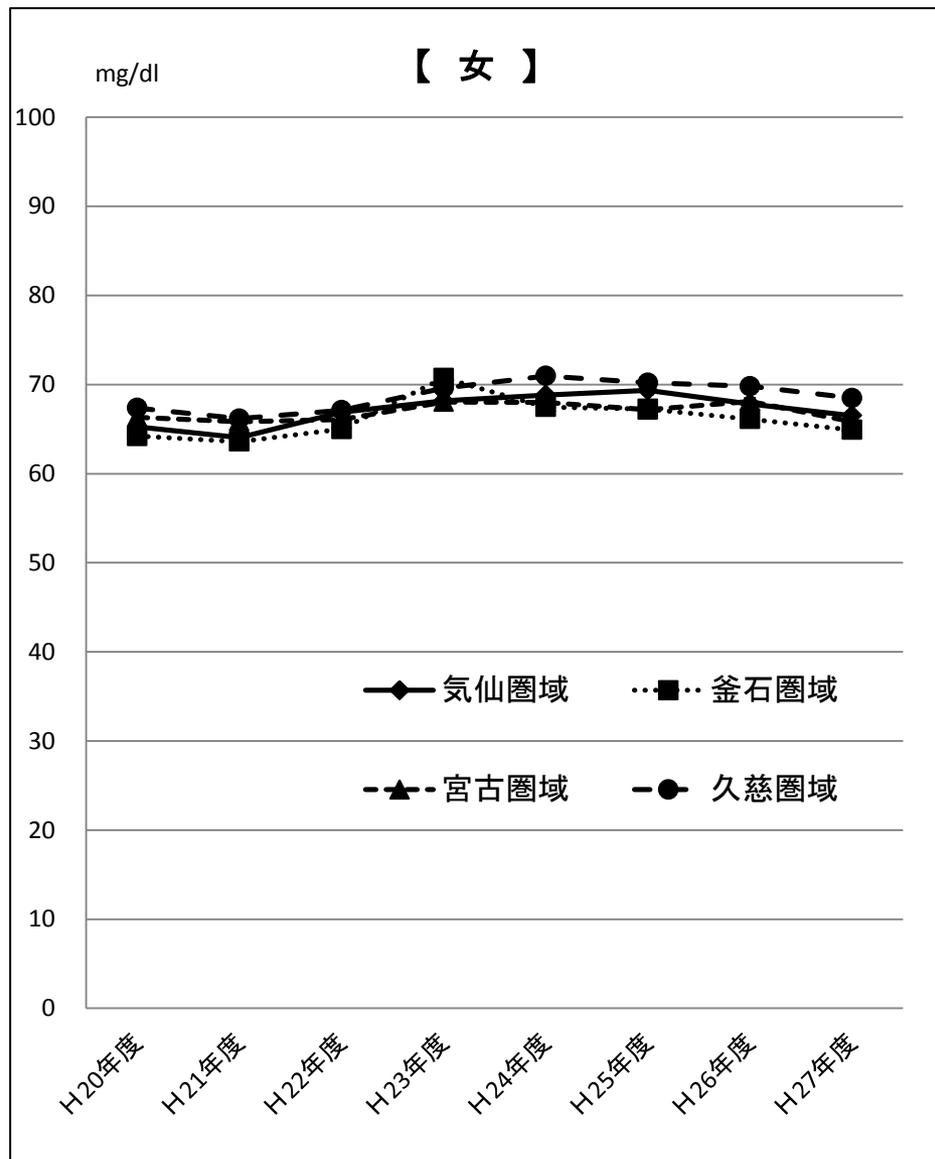
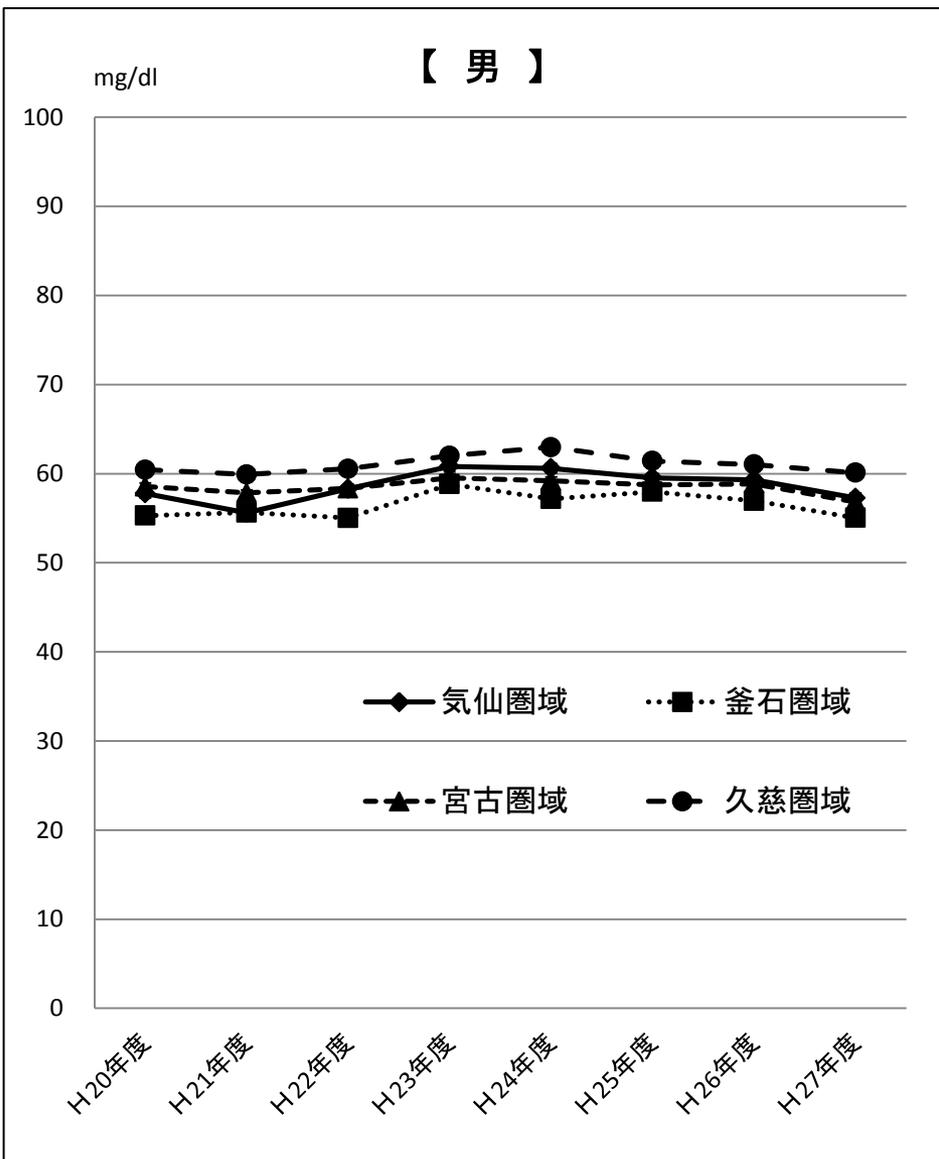
mmHg 【女（収縮期血压）】



mmHg 【女（拡張期血压）】

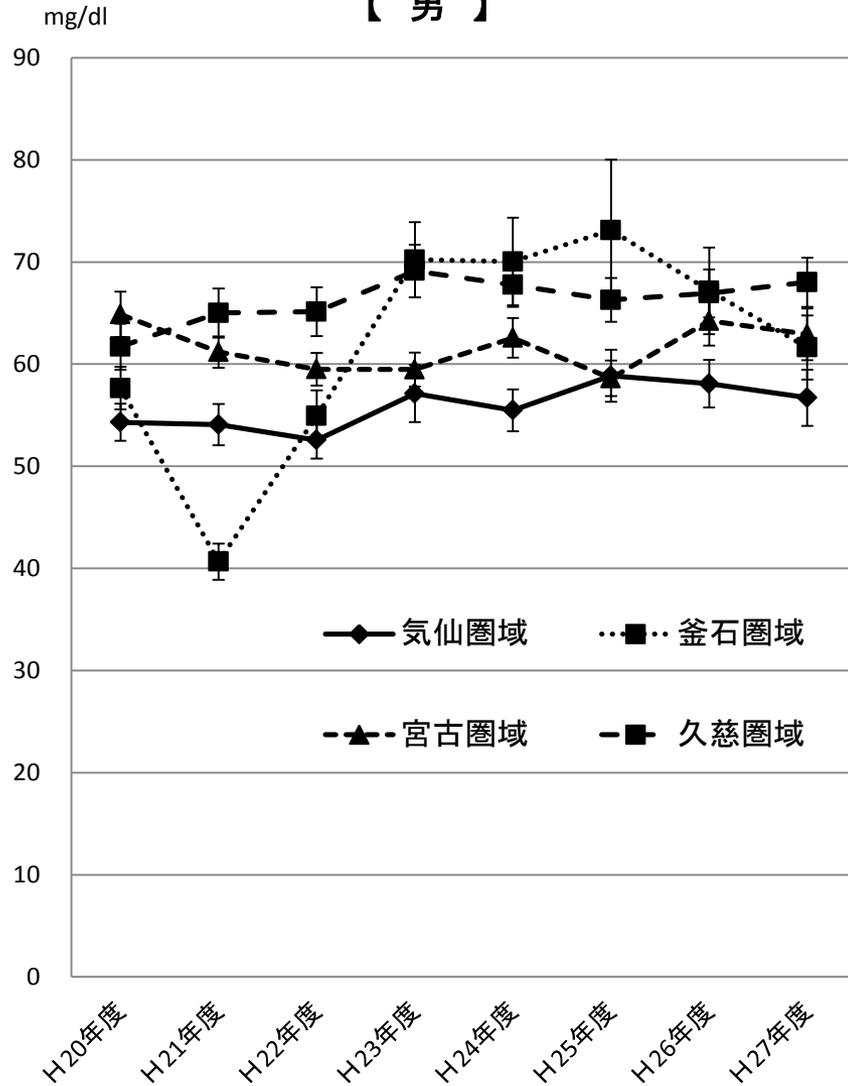


1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別 「HDLコレステロール」

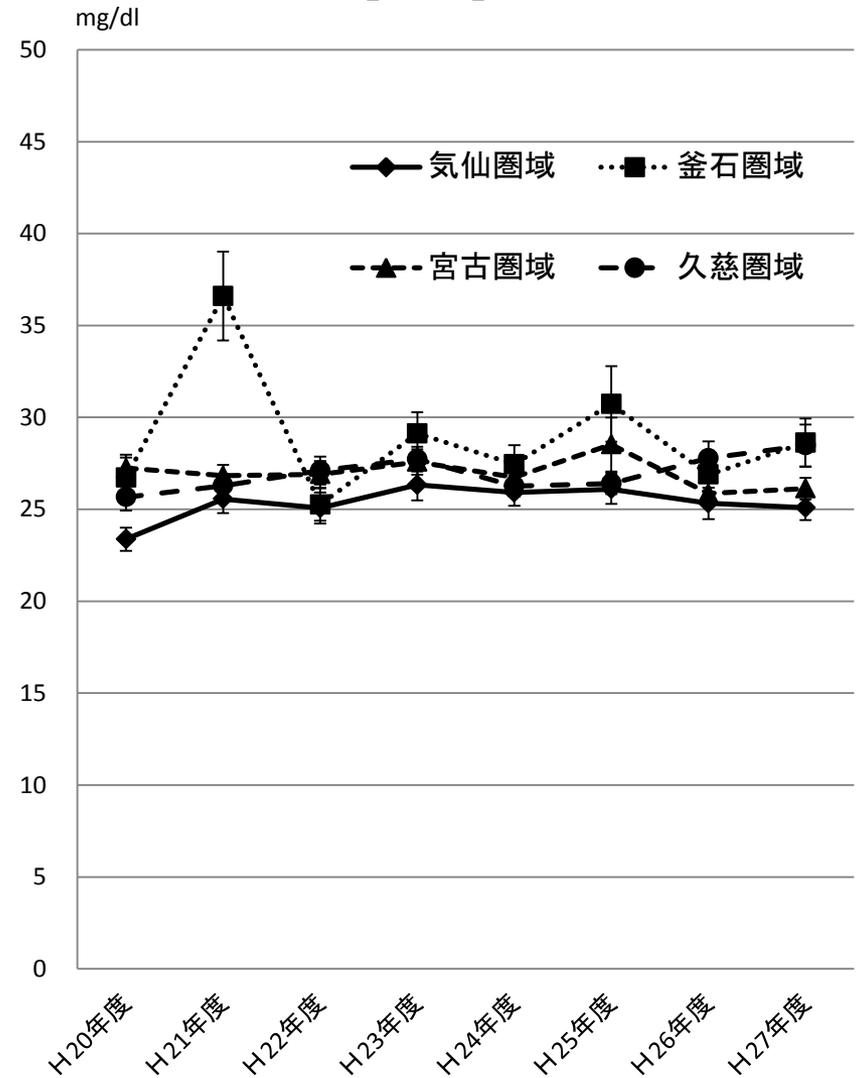


1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別 「 γ -GT(γ -GTP)

【 男 】

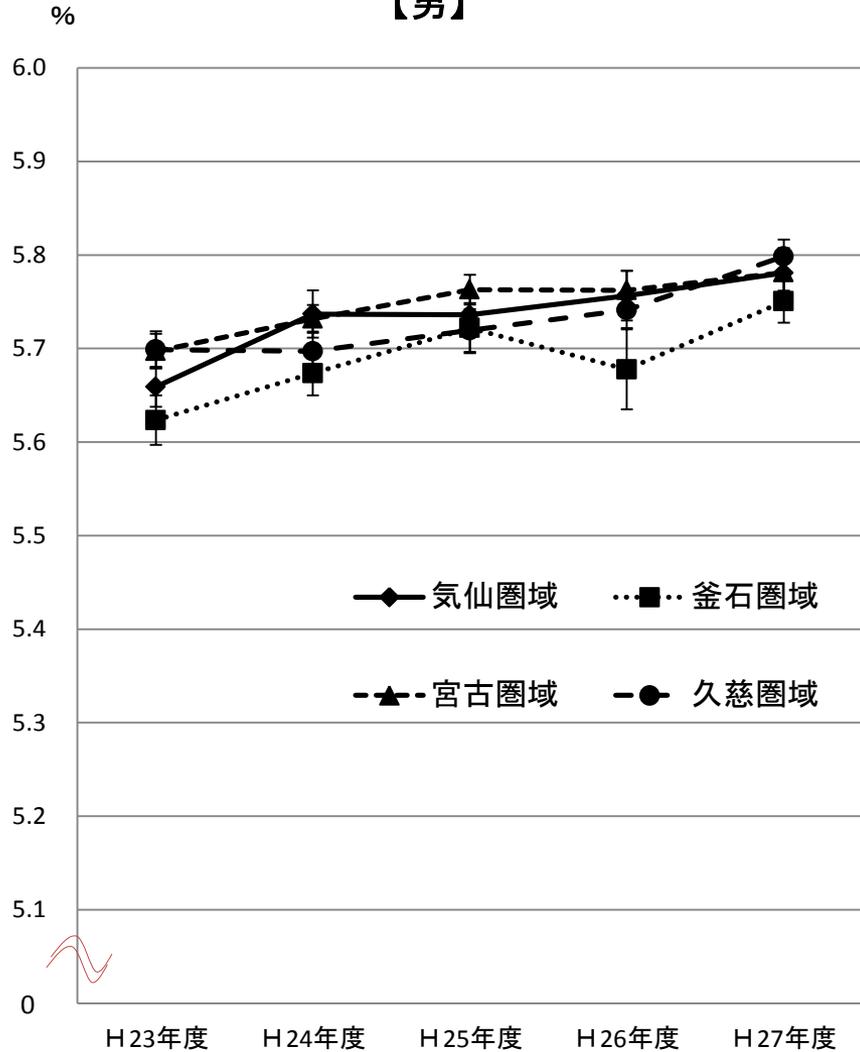


【 女 】

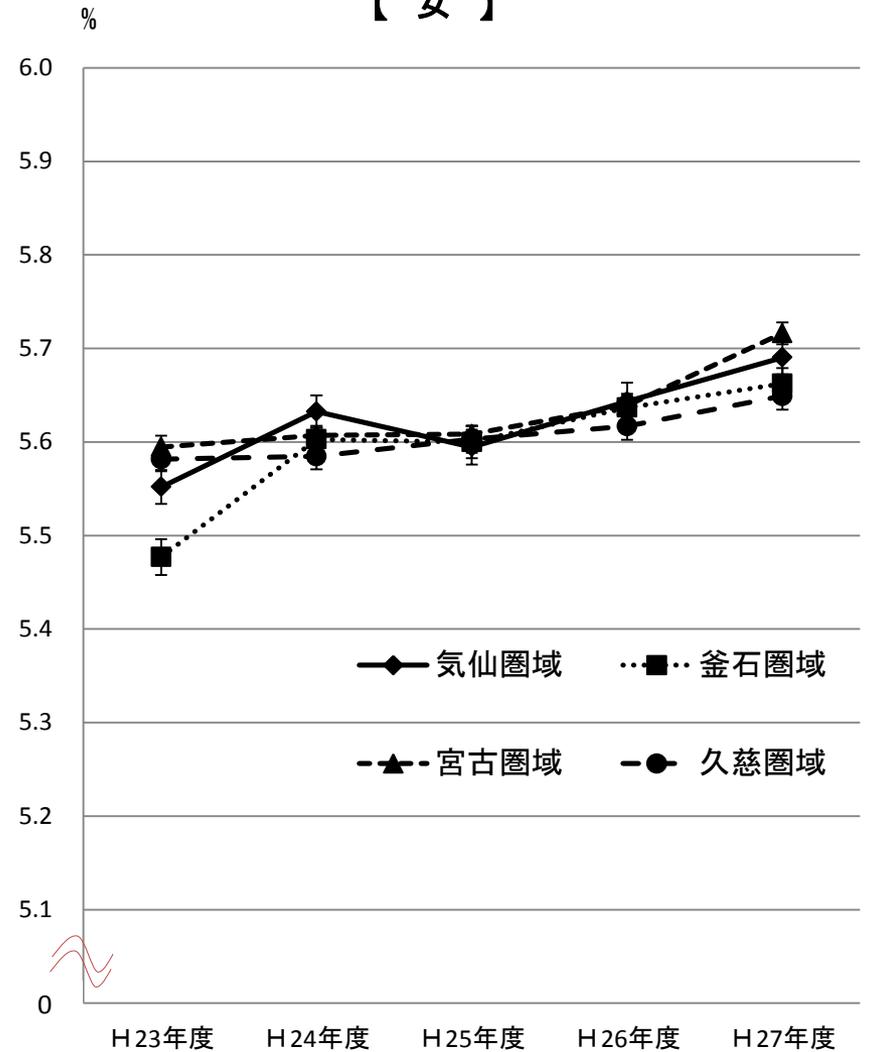


1-② 年齢調整平均 沿岸圏域別「HbA1c(NGSP値)」

【男】



【女】



※H23年度、24年度はNGSP値に修正済

〔結果〕

1 年齢調整平均

① 沿岸12市町村全体

【BMI】 男性は平成23年度に上昇し、以後横ばいで推移している。
女性は平成20年度から減少傾向にある。

【血圧】 男女とも、横ばいで推移している。

【HDLコレステロール】 男女とも平成23年度に上昇しているが、その後は緩やかに低下している。

【LDLコレステロール】 男性はほぼ横ばいで推移し、女性は平成22年度が最も低く、以後緩やかに上昇している。

【r-GT】 男性は、平成23年度に上昇し、以後横ばいで推移している。女性は、平成20年度から横ばいで推移している。

【HbA1c】 男女共、緩やかに上昇傾向にある。

② 圏域別

【BMI】 男性は平成23年度に全圏域で上昇し、釜石圏域と宮古圏域は高い数値で推移している。女性は平成20年度から増減を繰り返しながら低下、または横ばいで推移している。

【血圧】 釜石圏域の男女とも平成23年度に高い値となったが、翌年度から低下傾向にある。また、平成27年度は久慈圏域の男女が高い値である。

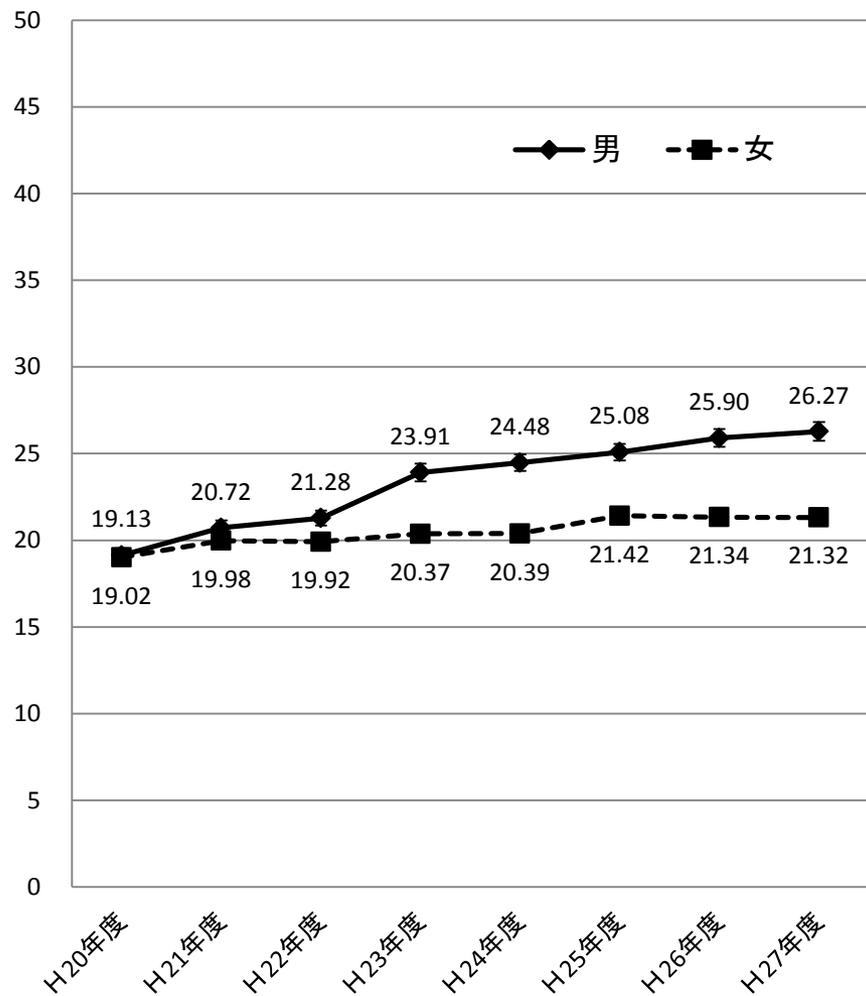
【HDLコレステロール】 男女とも平成23年度に上昇し、その後緩やかに低下している。

【 γ -GT】 男性は、宮古圏域を除く3圏域において平成23年度に上昇している。最も高いのは釜石圏域だが、平成27年度は値が低下している。久慈圏域は高い値のまま横ばいで推移している。女性も釜石圏域が高い。久慈圏域は、平成26・27年度上昇している。

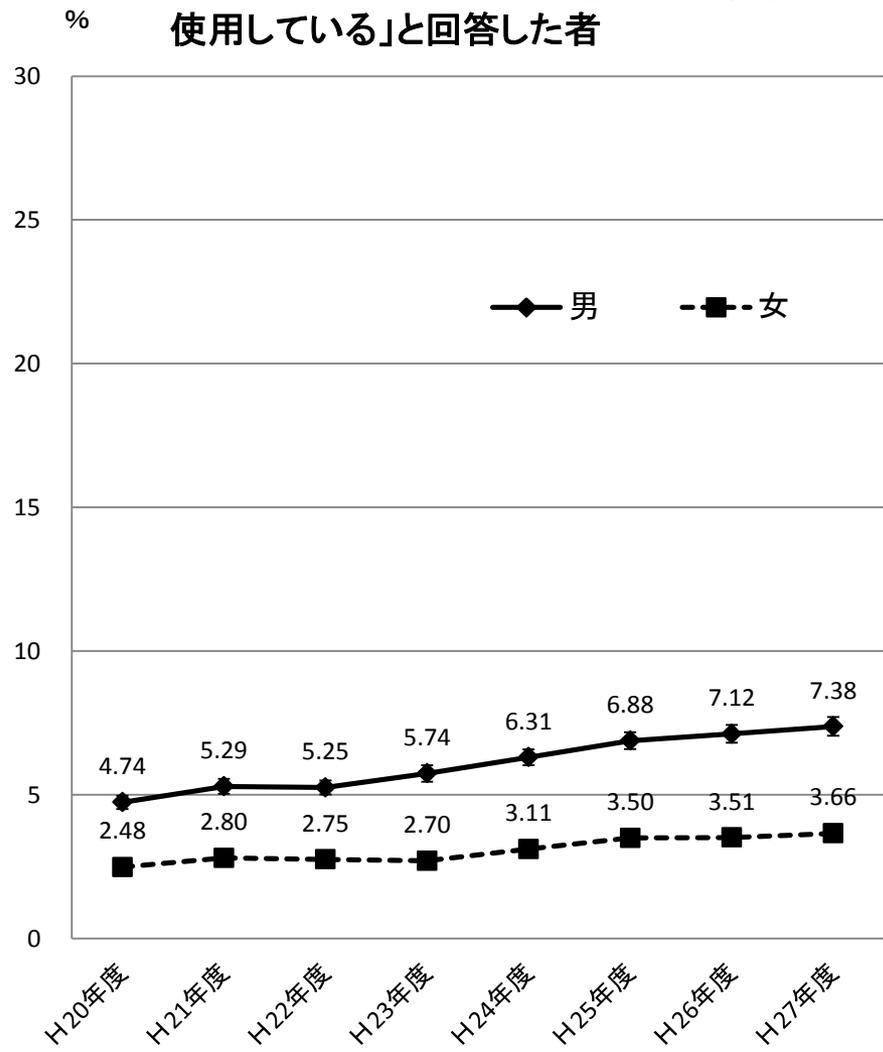
【HbA1c】 男女とも緩やかに上昇傾向にある。

2-① 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸12市町村全体

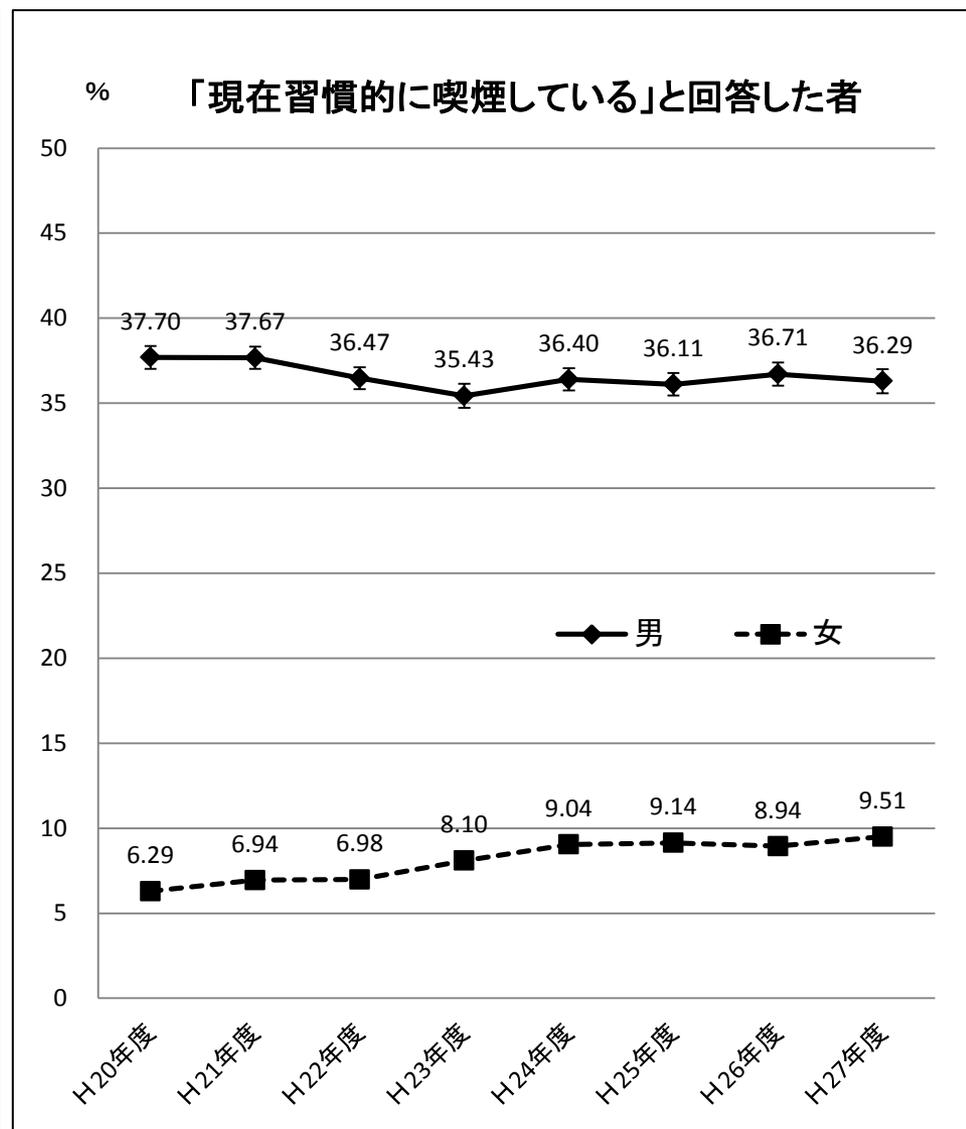
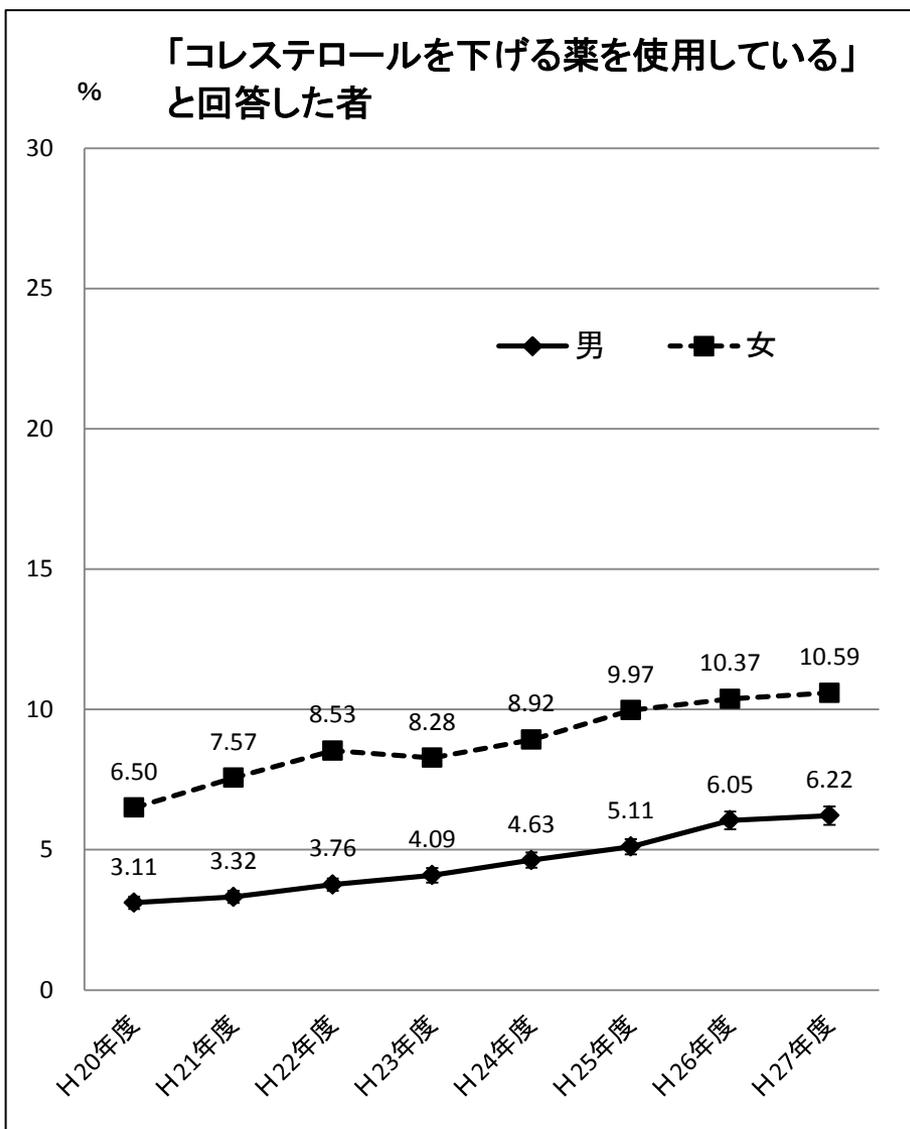
「血圧を下げる薬を使用している」と回答した者



「インスリン注射又は血糖を下げる薬を使用している」と回答した者



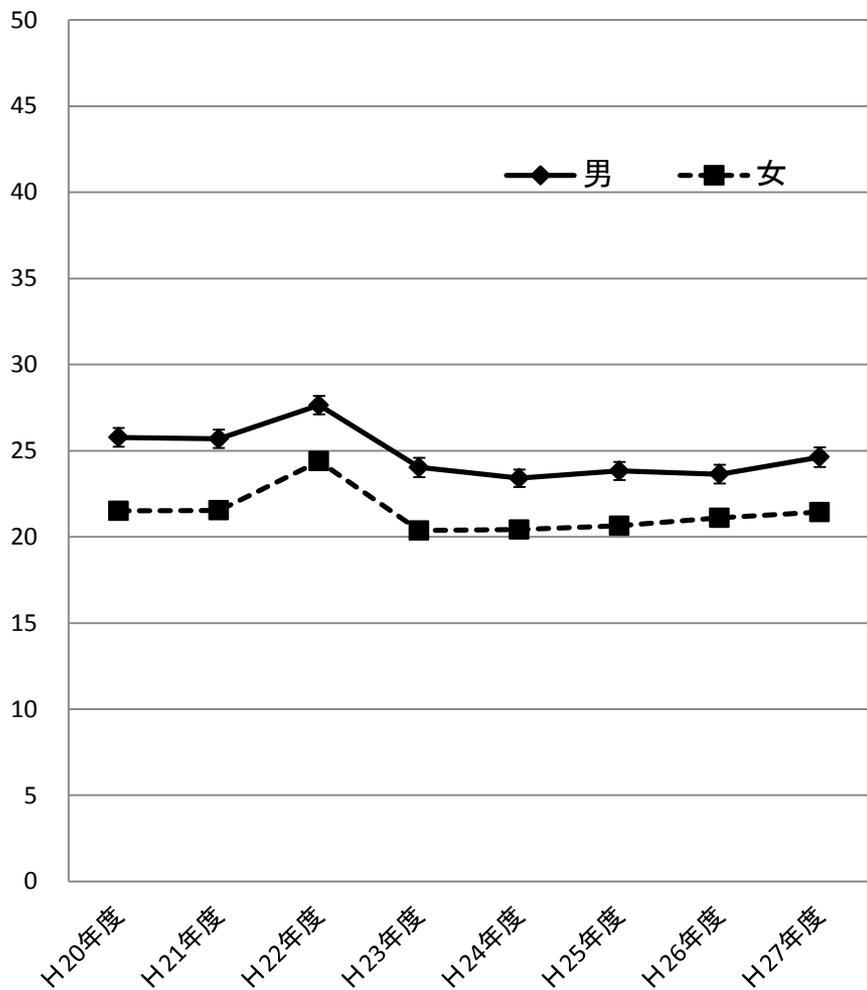
2-① 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸12市町村全体



2-① 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸12市町村全体

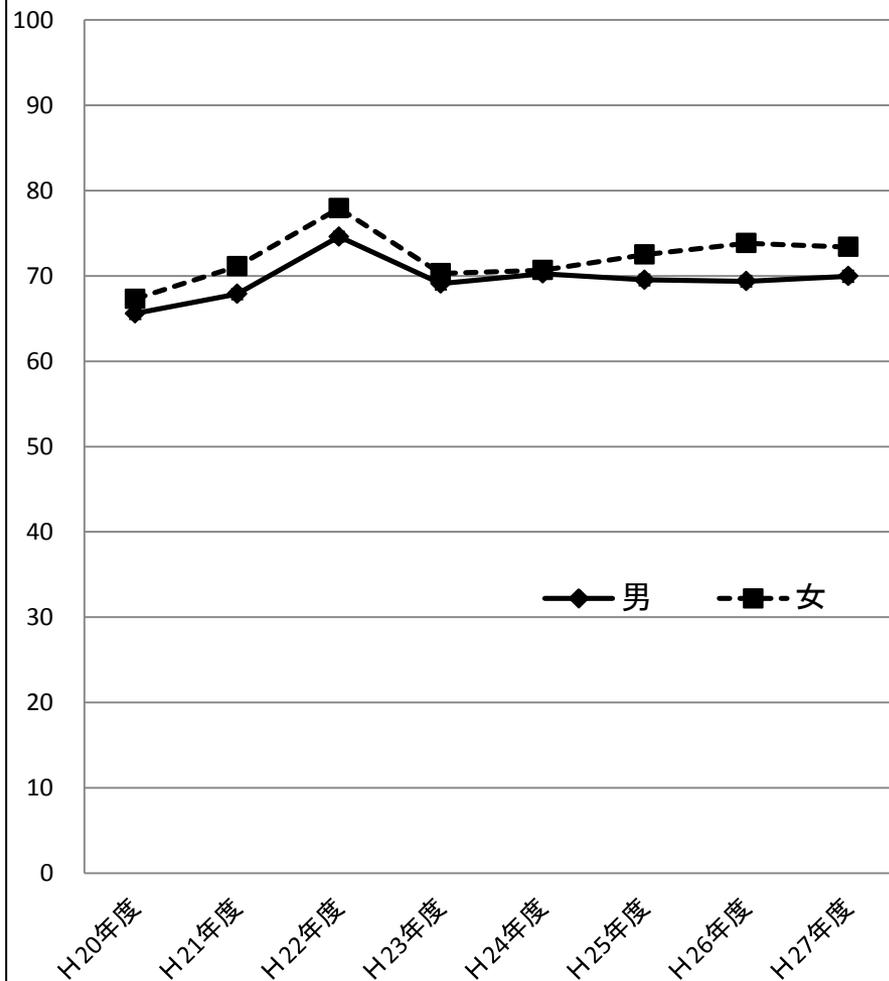
「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施」と回答した者

%

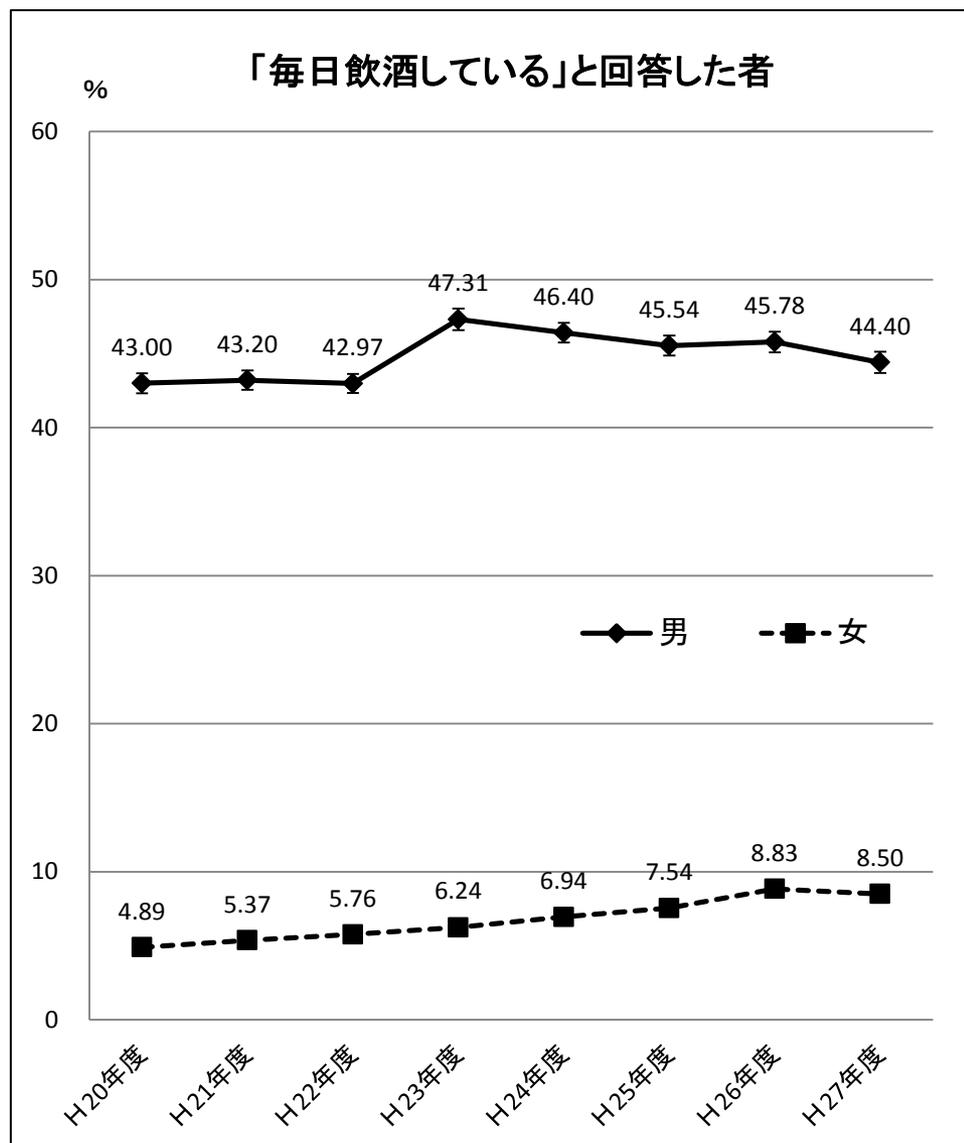
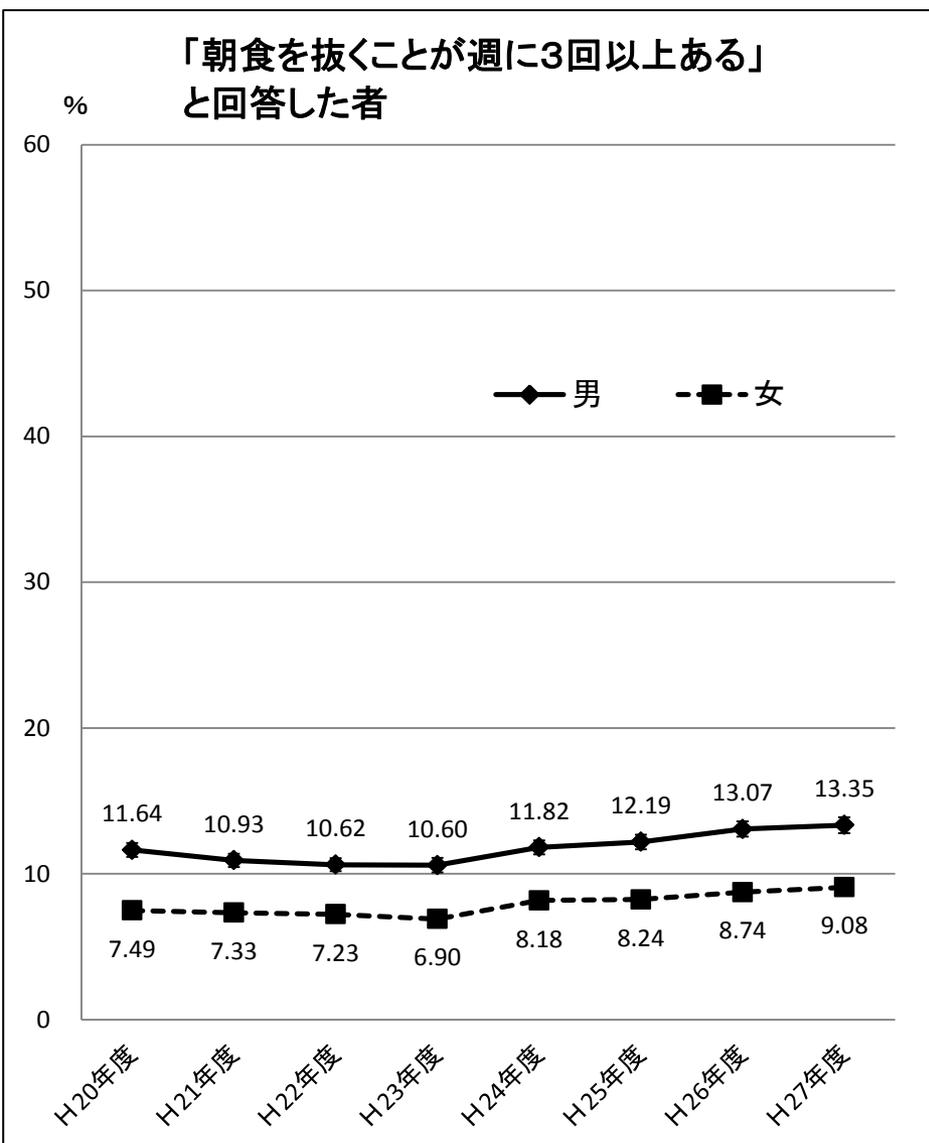


「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」と回答した者

%

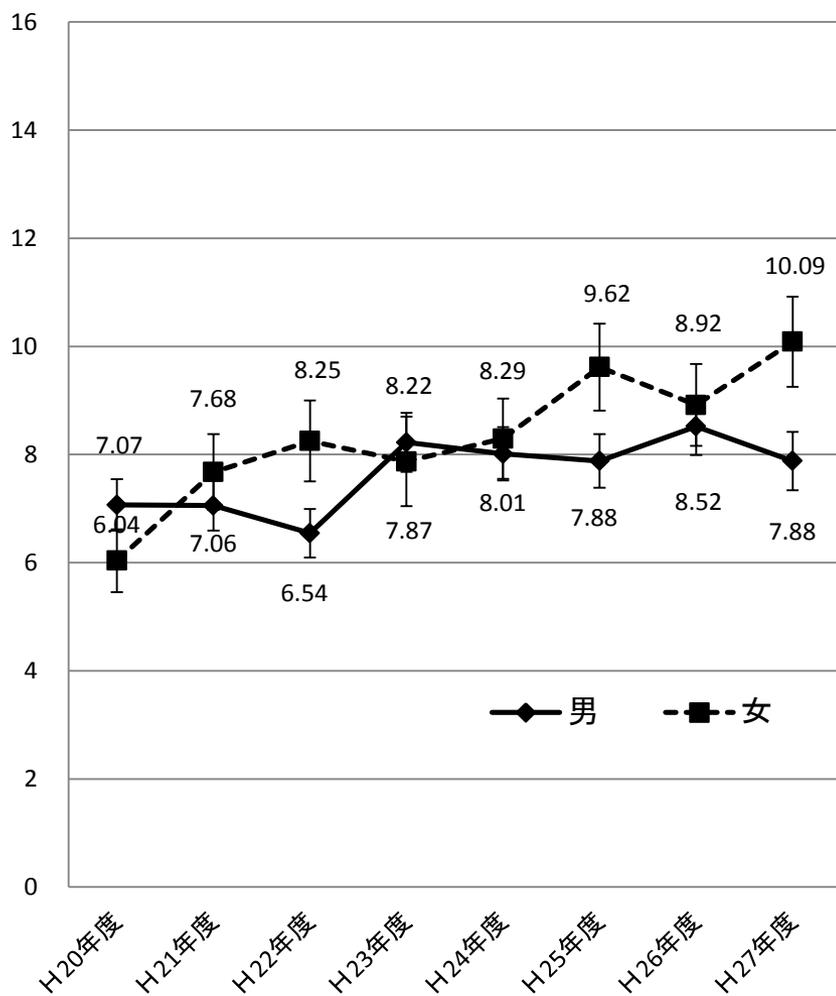


2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸12市町村全体

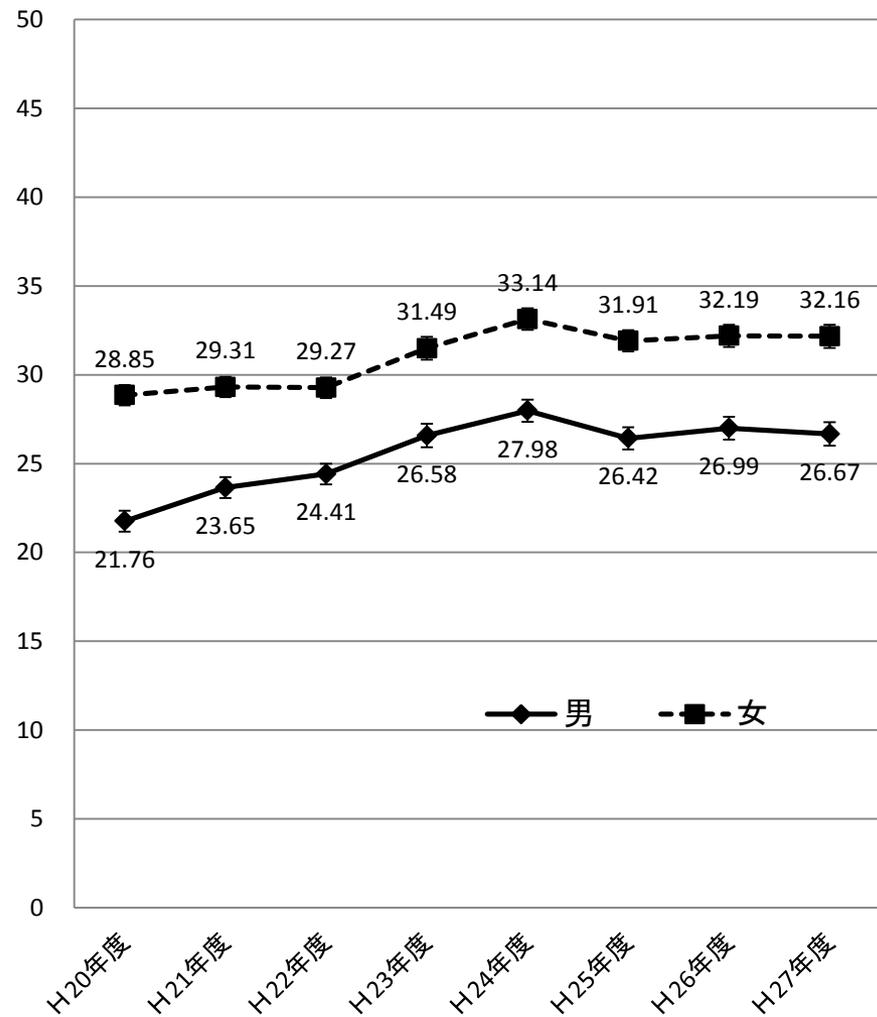


2-① 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸12市町村全体

「飲酒日の1日当たり 男3合以上、女2合以上
飲酒している」と回答した者

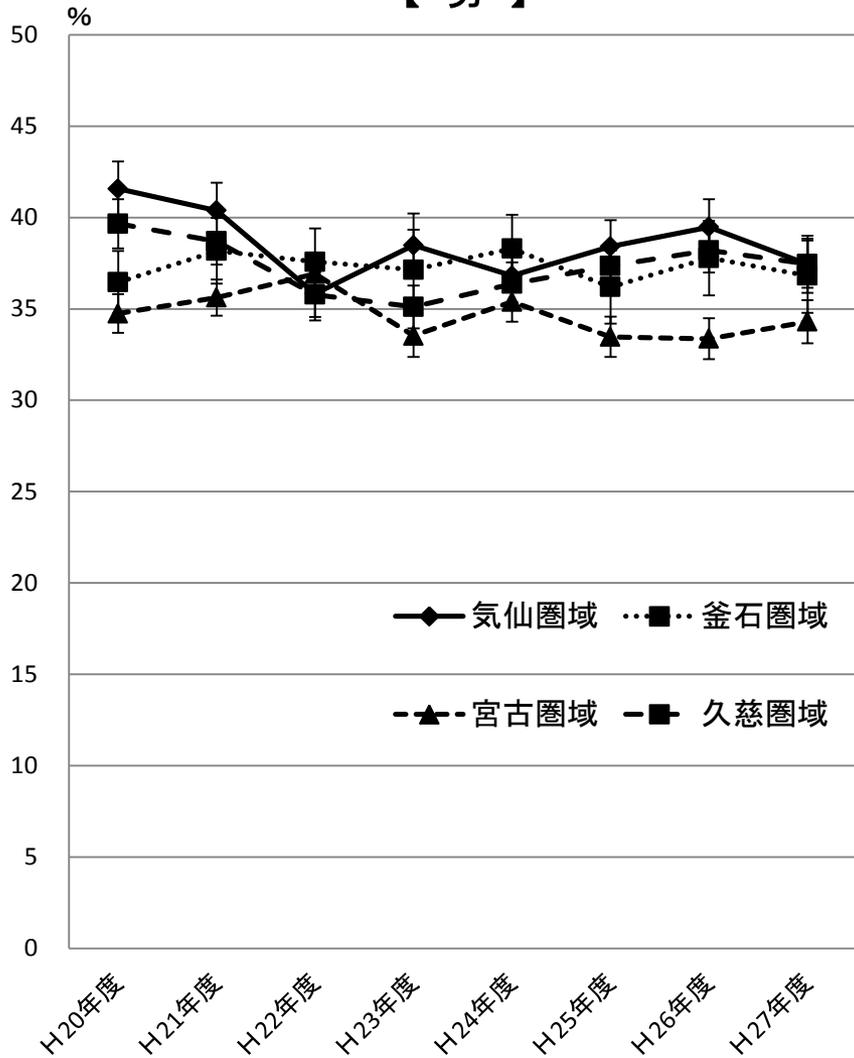


「睡眠で十分休養がとれない」と回答した者

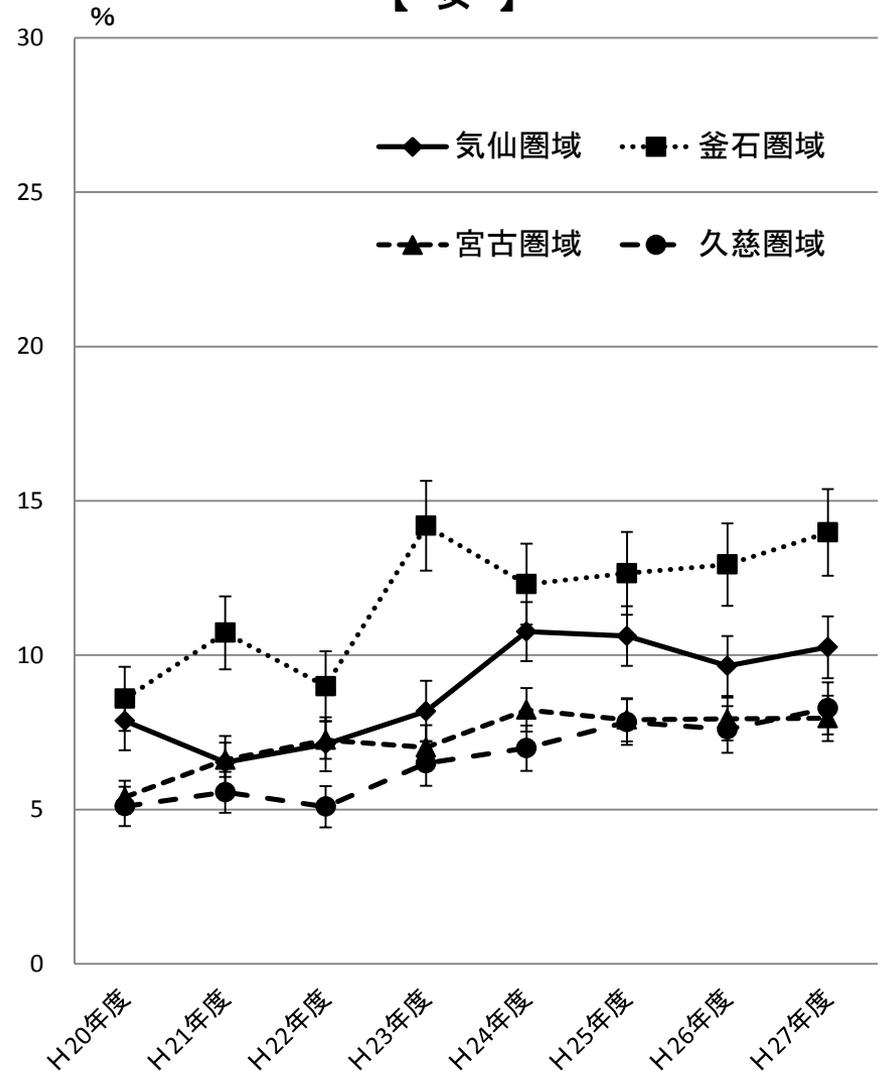


2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸圏域別 「現在習慣的に喫煙している」と回答した者

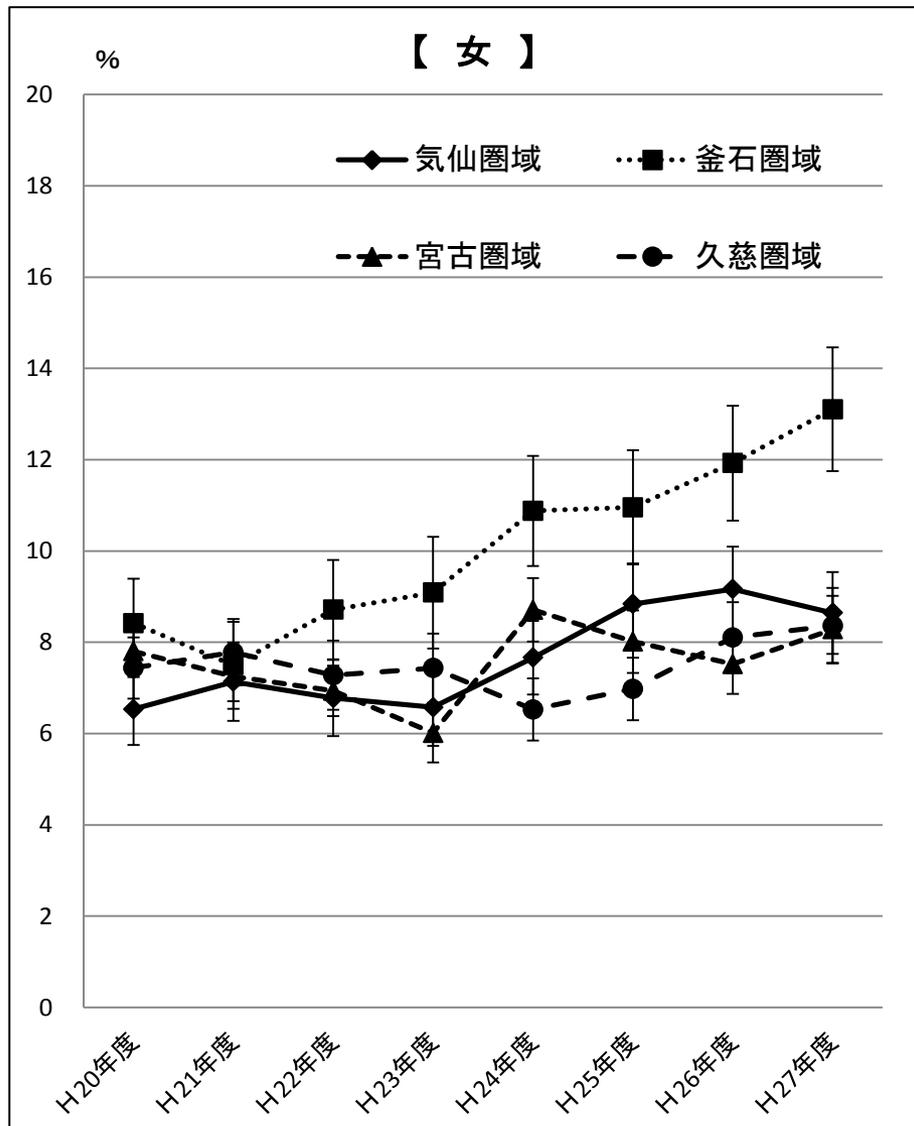
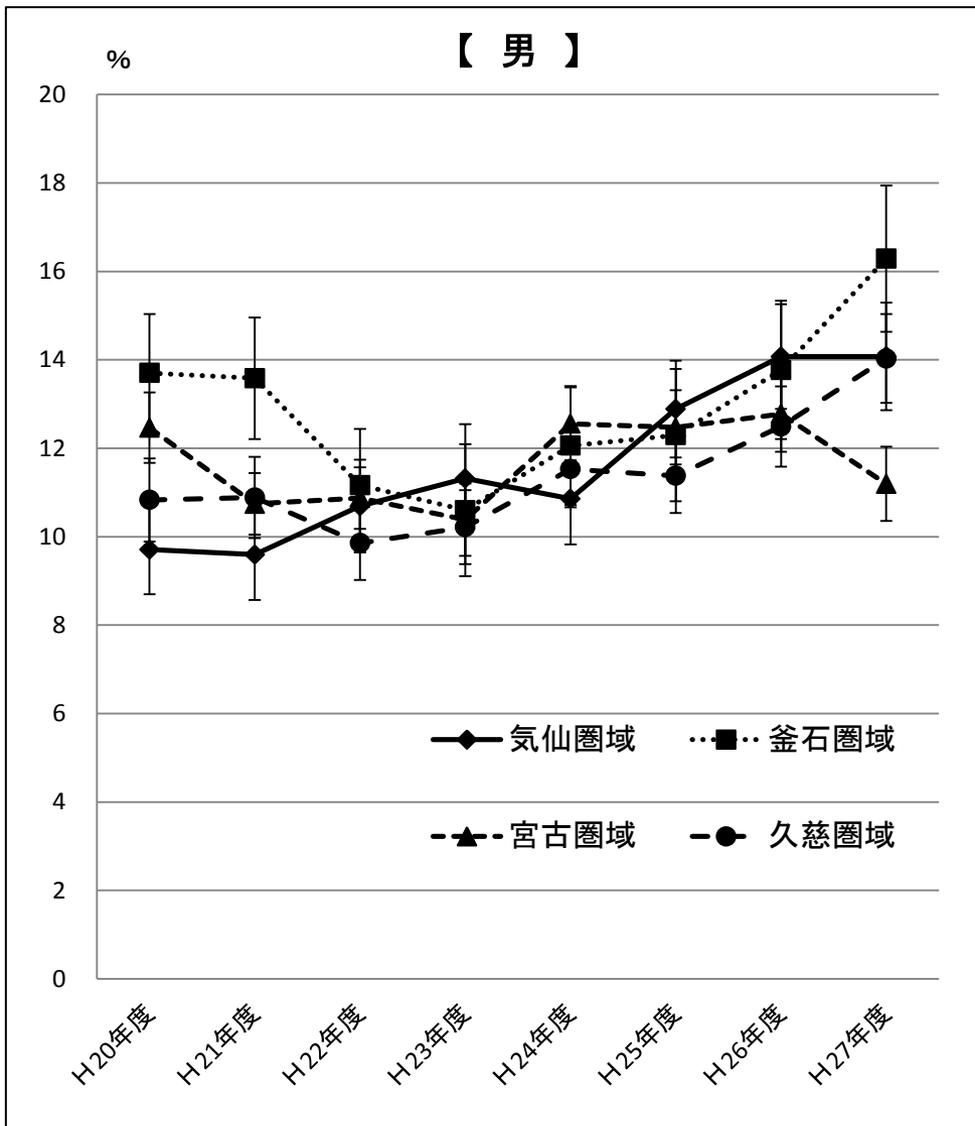
【 男 】



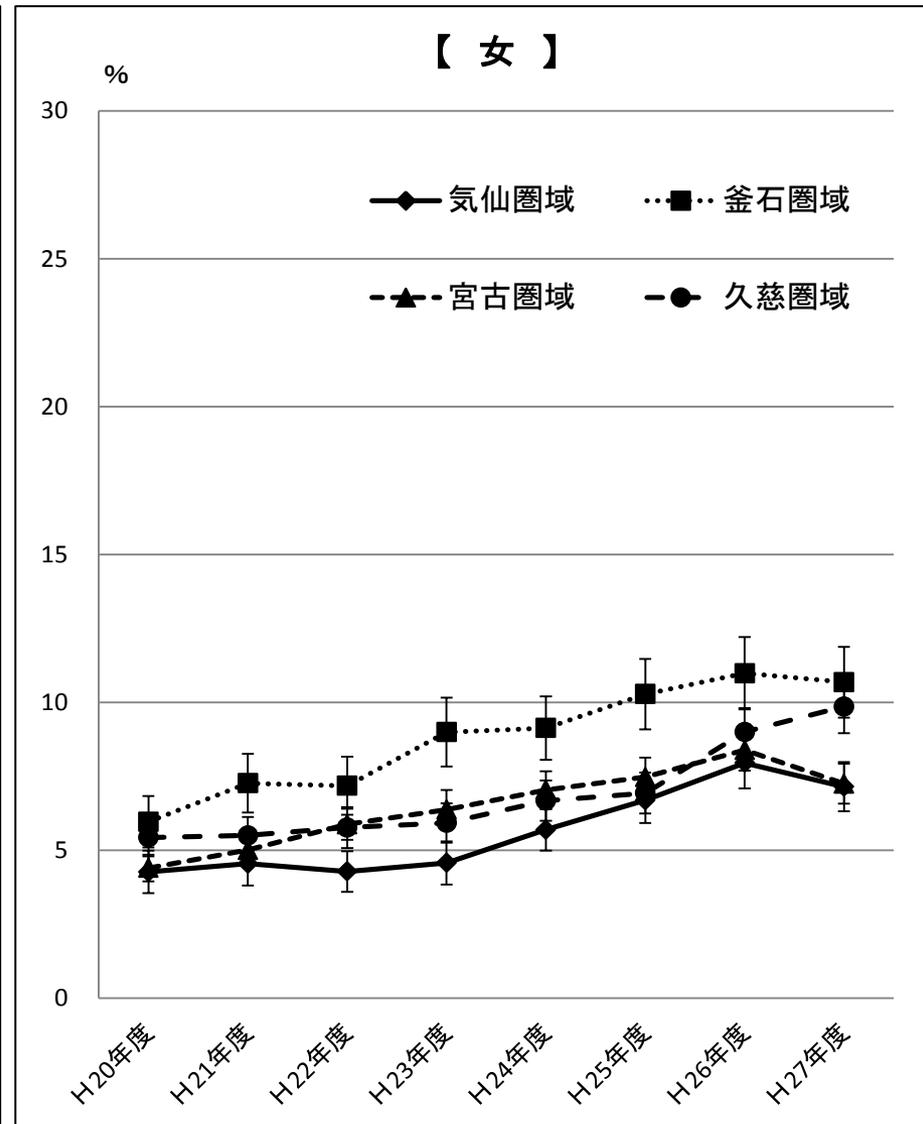
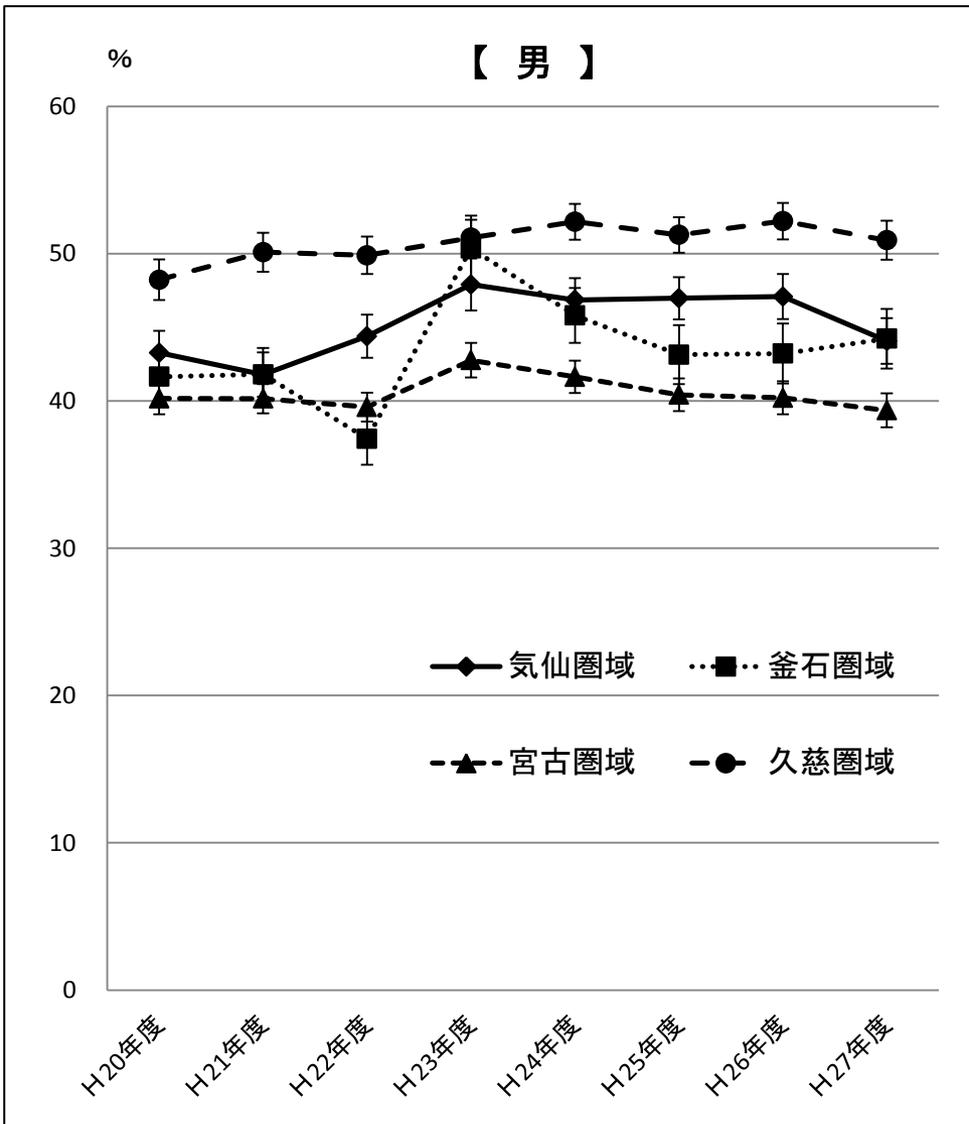
【 女 】



2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸圏域別 「朝食を抜くことが週3回以上ある」と回答した者



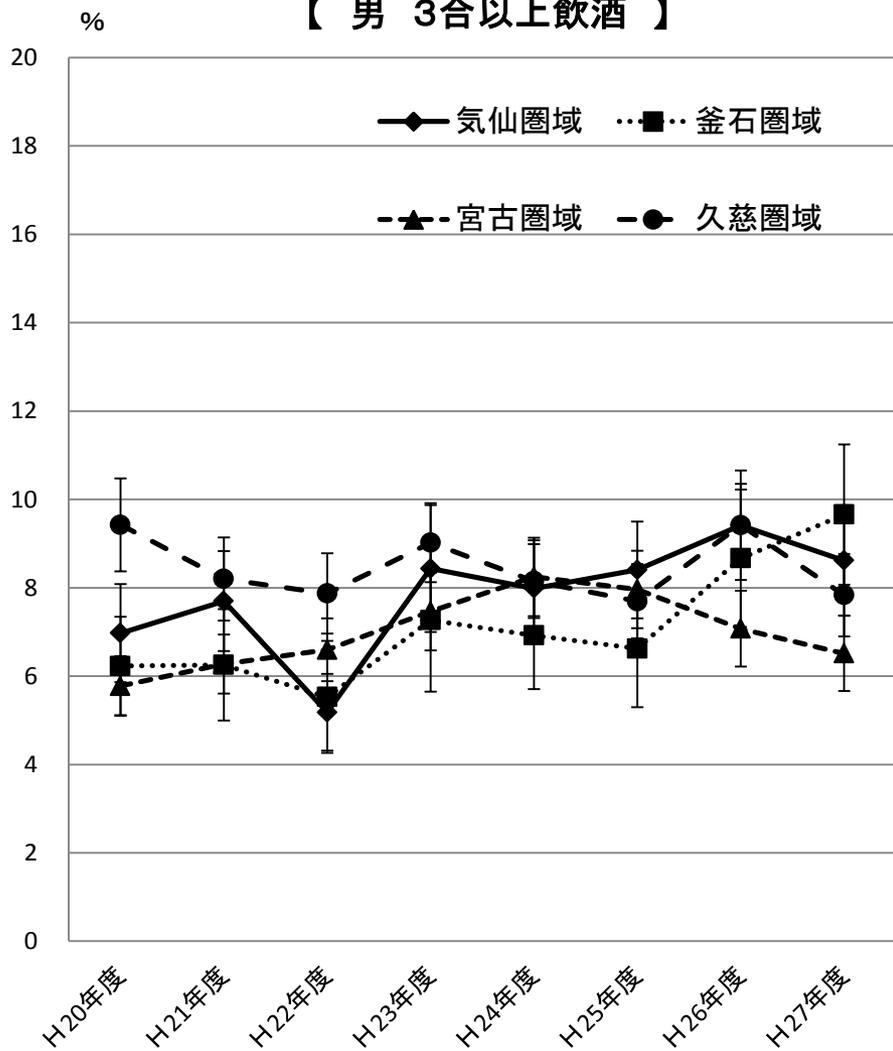
2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸圏域別 「毎日飲酒している」と回答した者



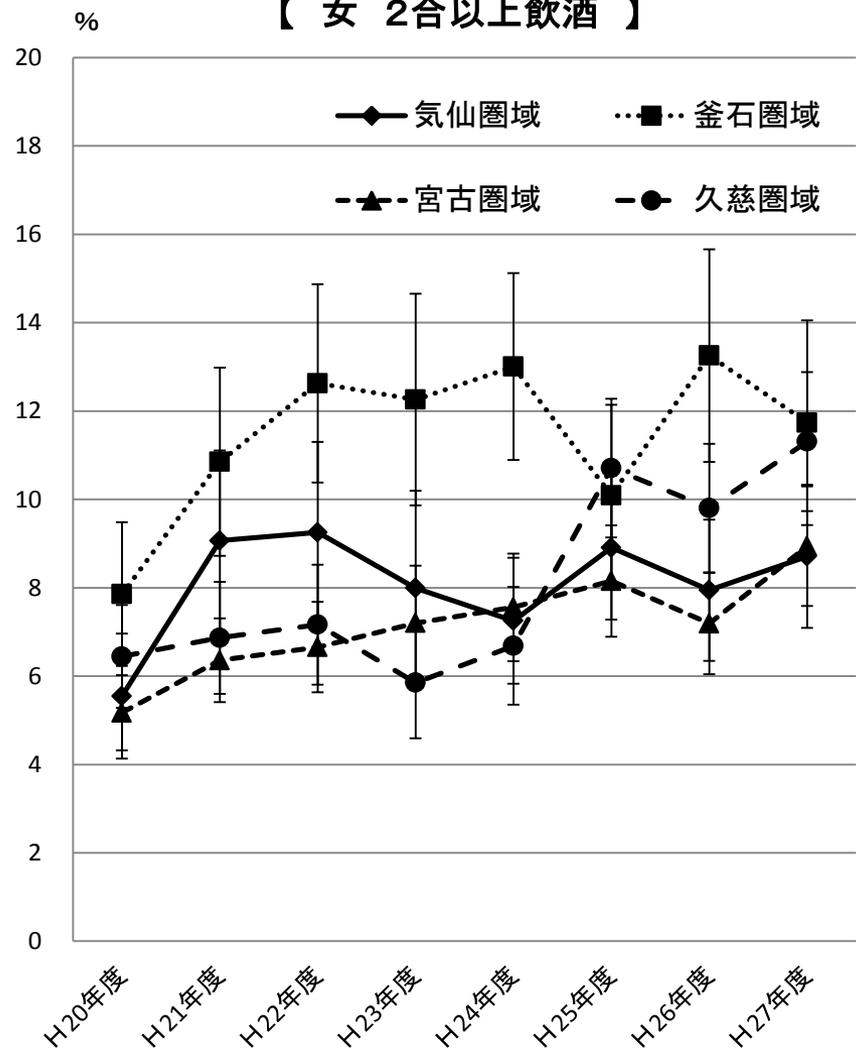
2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸圏域別

「飲酒日の1日当たり 男3合以上、女2合以上 飲酒する」と回答した者

【 男 3合以上飲酒 】

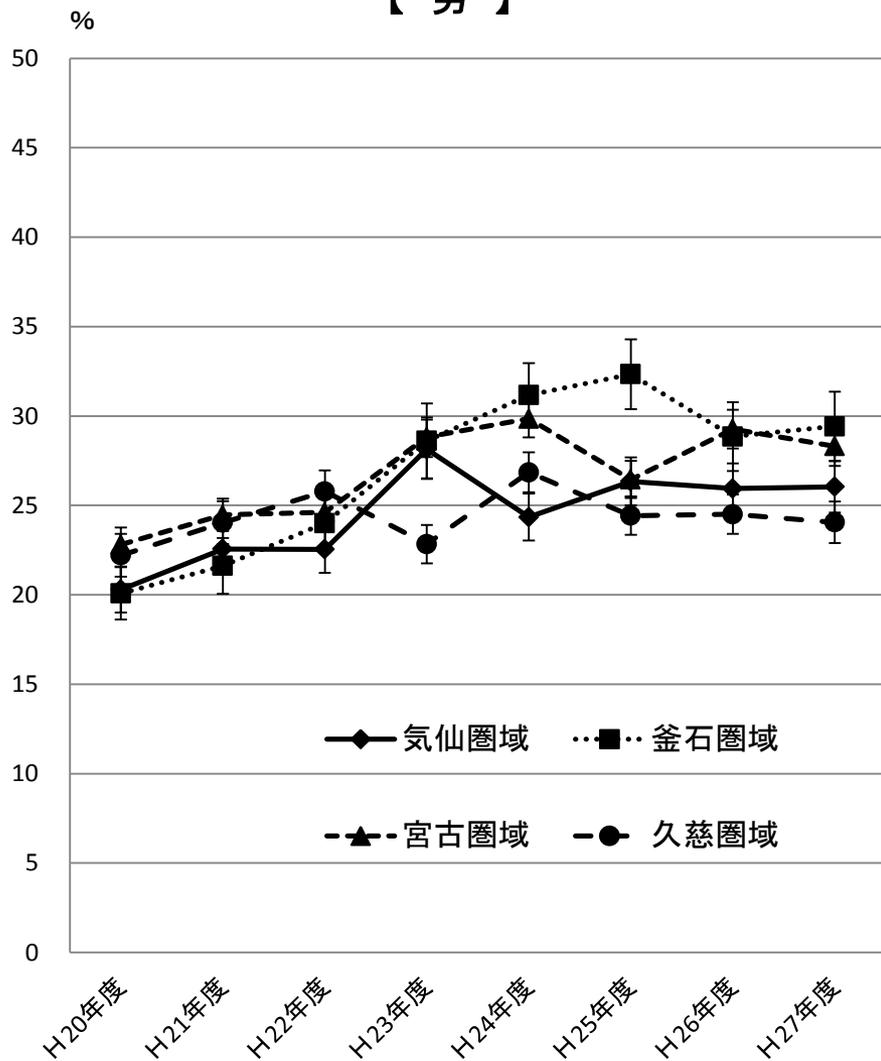


【 女 2合以上飲酒 】

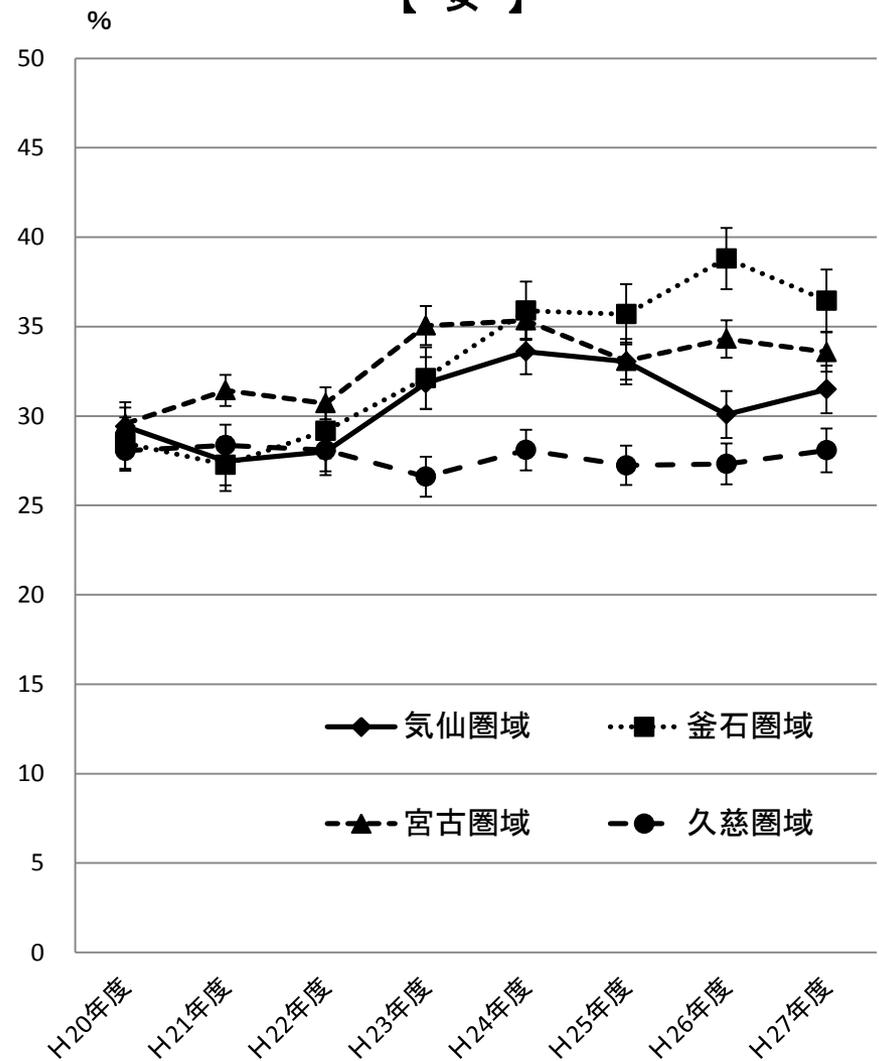


2-② 年齢調整割合(標準的な質問票) 沿岸圏域別 「睡眠で十分休養がとれない」と回答した者

【 男 】



【 女 】



〔結果〕

2 年齢調整割合（標準的な質問票）

① 沿岸12市町村全体

【血圧を下げる薬】 【インスリン注射又は血糖を下げる薬】 【コレステロールを下げる薬】 の使用割合は、男女とも上昇傾向にある。

【習慣的に喫煙している割合】 は、男性は横ばいで推移しているのに対し、女性 は上昇傾向にある。

【運動習慣、身体活動がある割合】 は、男女とも平成23年度に低下し、その後男性は横ばい、女性 は緩やかに上昇している。

【朝食欠食割合】 は、男女とも平成24年度以降緩やかな上昇傾向にある。

【毎日飲酒している割合】 は、男性は、平成23年度に上昇し、以後緩やかに低下傾向にあるが、女性 は上昇傾向にある。

【睡眠で十分休養がとれない割合】 は、男女とも上昇傾向にある。

② 圏域別

【習慣的に喫煙している割合】は、男性は、上昇低下を繰り返しながら横ばいで推移しているのに対し、女性は上昇傾向にあり、平成27年度は、釜石圏域と久慈圏域が高い割合となっている。

【朝食欠食割合】は、男性は、気仙圏域が平成22年度から、他の3圏域は、平成24年度以降上昇傾向にある。女性も増減を繰り返しながら上昇傾向にある。平成27年度は、男女とも釜石圏域が最も高い割合であった。

【毎日飲酒している割合】は、男性は、久慈圏域が最も高い割合で推移している。女性は上昇傾向にあり、平成27年度は、釜石圏域が最も高く、次いで久慈圏域であった。

【睡眠で十分休養がとれない割合】は、久慈圏域の男女と気仙圏域の男性を除き、上昇傾向にある。平成27年度は、男女とも釜石圏域が最も高く、次いで宮古圏域、気仙圏域であった。

〔まとめ〕

- 血圧等を下げる薬の使用割合は上昇傾向である。服薬による管理は大切であるが、併せて生活習慣病要因となっている生活習慣の改善を図ることも必要である。
- 平成23年度以降、年齢調整平均や年齢調整割合が上昇傾向にある検査項目が認められるが、標準的な質問票の年齢調整割合からも「運動不足」、「習慣的な喫煙」、「朝食欠食」、「毎日飲酒」、「睡眠で十分な休養がとれない」という生活習慣に関係する項目が上昇傾向にある圏域があることから、不健康な生活を送っている人が増えていることが推測される。
- 特に女性において、「習慣的な喫煙」と「朝食欠食」、「毎日飲酒」の割合緩やかではあるが上昇していることから、望ましい生活習慣への改善を図ることが必要である。
- 今回は圏域ごとの集団で分析を行ったが、市町村においても個々の健診結果を分析して、各人に合わせた健康支援が展開されることを期待する。
- 本調査は、同一人の受診結果を経年的に観察したものではないこと等踏まえる必要があり、結果については慎重な解釈が必要である。